

科目名	インターンシップ		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

##### 科目の概要

10日(60時間)以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

##### 学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早く取れる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備(心構え、情報や資料の収集等)をしっかりと行うことが重要である。従って本件で、単位修得の為には、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事を原則とする。

#### 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。又、確実な成果を上げるために、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事。

#### 評価

受け入れ先の評価(A)、インターンシップレポート(B)、それに巡回指導(C)に基づいて行う。その点数配分は、Aが40点、Bが40点、Cが20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

【推薦書】 特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

【参考図書】

科目名	インターンシップ		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

##### 科目の概要

10日(60時間)以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

##### 学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早く取れる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備(心構え、情報や資料の収集等)をしっかりと行うことが重要である。従って 本件で、単位修得の為には、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事を原則とする。

#### 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。

インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。又、確実な成果を上げるために、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事。

#### 評価

受け入れ先の評価(A)、インターンシップレポート(B)、それに巡回指導(C)に基づいて行う。その点数配分は、Aが40点、Bが40点、Cが20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

【推薦書】 特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

【参考図書】

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

#### 科目の概要

5日(35時間)以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

#### 学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備(心構え、情報や資料の収集等)をしっかりと行うことが重要である。その為には、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事が望ましい。

#### 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

#### 評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

#### 授業外学習

【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。

【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

【推薦書】 特になし。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。

【参考図書】

科目名	短期インターンシップ		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

インターンシップとは、学生が在学中の一定期間に企業や官公庁など実際の職場に出向いていき、職場で就業体験を行うという教育プログラムのことである。これによって、社会の変化や経済・産業界のニーズを知り、社会に出てからの能力発揮が可能になるよう準備する人材育成策でもある。

#### 科目の概要

5日(35時間)以上、協力企業・自治体で就業体験を行い、レポートを作成し、受け入れ先の評価をもらう。

#### 学修目標

多くの学生には、インターンシップに参加することで、職業選択や将来設計について考える貴重な機会となっている。またインターンシップに参加した学生は内定を早くとれる傾向が見られる。以上のことから、事前の準備(心構え、情報や資料の収集等)をしっかりと行うことが重要である。その為には、前期に開設されるインターンシップ入門を受講する事が望ましい。

#### 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種に限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず、職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的に合ったものを選んで行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味からも実習に対しては無報酬が原則である。インターンシップ受け入れ先については、キャリアセンターや教員からの紹介の他に、自己開拓も認める。なお、詳細については、キャリアセンターで実施するオリエンテーションに必ず出席して確認すること。

#### 評価

インターンシップレポートを作成、提出し、報告会で報告した学生のみ単位取得が可能。

#### 授業外学習

- 【事前予習】少なくとも1週間程度は、自分が志望する複数の職種を事前に具体的に調査しておくこと。
- 【事後学修】終了後は、各自1週間程度はしっかりとフィードバックをし、反省すべき点を明らかにしておくこと。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】
- 【推薦書】 特にない。ただし、受け入れ先で指示した場合は、それに従うこと。
- 【参考図書】

科目名	経営学基礎		
担当教員名	藤本 正徳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

企業と経営の基礎を学ぶ入門講座として必修科目です。

#### 科目の概要

企業は毎日の生活に必要な商品やサービスを提供するとともに、多くの人々を雇用して生活の基盤を提供している欠かせない存在です。本講座では、企業はどのようなものか、どんな仕組みで運営や経営されているのかについて、わかり易く学びます。

#### 学修目標( =到達目標)

企業や経営の基礎を理解することによって、社会人の活動や企業や社会の話題についても関心を持って、またこれから学ぶ他のビジネス関連科目の習得や理解が容易になります。

内容	
1	ガイダンス、授業の概要・進め方、成績評価など
2	企業の歴史と現代社会における会社
3	経済学と経営学の関係、社会と企業、企業と家計・個人
4	会社の目的と経営の目的：社会に価値を提供し、継続して成長すること
5	経営学の主要な領域
6	マーケティングとは
7	物づくりと生産管理
8	物流とロジスティクス
9	財務・会計、情報管理
10	組織のマネジメントと人事管理
11	企業の種類、株式会社の特徴と機能
12	企業の社会的責任とステークホルダーとの関係
13	経営戦略
14	リーダーシップ
15	まとめ

#### 評価

授業への取組姿勢 40%、レポート 20%、期末試験 40%を目安とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】事前にサーバーで講義資料に目を通しておくこと

【事後学修】授業で学んだ内容を講義資料で再確認し、十分理解できない点があれば次回に質問のこと

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】パワーポイント講義資料。必要に応じて縮刷版を配布。

【推薦書】「経営学が面白いほどわかる本」（笠原英一著、中経出版）

【参考図書】



科目名	経営学基礎		
担当教員名	藤本 正徳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

企業と経営の基礎を学ぶ入門講座として必修科目です。

#### 科目の概要

企業は毎日の生活に必要な商品やサービスを供給するとともに、多くの人々を雇用して生活の基盤を提供している欠かせない存在です。本講座では、企業はどのようなものか、どんな仕組みで運営や経営されているのかについて、わかり易く学びます。

#### 学修目標(=到達目標)

企業や経営の基礎を理解することによって、社会人の活動や企業や社会の話題についても関心を持って、またこれから学ぶ他のビジネス関連科目の習得や理解が容易になります。

内容	
1	ガイダンス、授業の概要・進め方、成績評価など
2	企業の歴史と現代社会における会社
3	経済学と経営学の関係、社会と企業、企業と家計・個人
4	会社の目的と経営の目的：社会に価値を提供し、継続して成長すること
5	経営学の主要な領域
6	マーケティングとは
7	物づくりと生産管理
8	物流とロジスティクス
9	財務・会計、情報管理
10	組織のマネジメントと人事管理
11	企業の種類、株式会社の特徴と機能
12	企業の社会的責任とステークホルダーとの関係
13	経営戦略
14	リーダーシップ
15	まとめ

#### 評価

授業への取組姿勢40%、レポート20%、期末試験40%を目安とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】事前にサーバーで講義資料に目を通しておくこと

【事後学修】授業で学んだ内容を講義資料で再確認し、十分理解できない点があれば次回に質問のこと

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】パワーポイント講義資料。必要に応じて縮刷版を配布。

【推薦書】「経営学が面白いほどわかる本」（笠原英一著、中経出版）

【参考図書】

科目名	ビジネス経済学		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

生活情報学科の基礎科目であり、経済学の基礎を学習する。

#### 科目の概要

経済学の基礎的概念と考え方を学習し、現実の経済問題について考察できるように講義する。

#### 学修目標 (= 到達目標)

経済学の基礎的概念を理解する。また、日本経済の諸問題について理解し、自分の意見を持てるようにする。

#### 内容

1	ガイダンス
2	経済学とは何か
3	ミクロ経済学 1 : 需要と供給
4	ミクロ経済学 2 : 市場の失敗
5	マクロ経済学 1 : ケインズ経済学
6	マクロ経済学 2 : 財政政策と金融政策
7	金融危機と金融政策
8	財政政策と財政赤字
9	中間試験
10	外国為替市場と日本経済
11	グローバルな金融危機と日本経済
12	社会保障改革
13	電力改革にみる公益事業
14	日本経済の過去、現状、未来
15	まとめ

#### 評価

中間テスト(30%)と学期末レポート(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】配布されたプリントを読むこと。

【事後学修】プリント、ノート、および参考文献の指定箇所を読み復習すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】指定なし。

【推薦書】『スティグリッツ 入門経済学 第4版』東洋経済新報社

【参考図書】授業中に指示する。

科目名	統計学基礎		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

「情報処理演習」で習得したエクセルの技術を活用して、統計学の基本的な知識を学ぶ。卒業研究などで活用できる実際に分析手法については「社会調査法」で、またアンケート手法とSPSSによる分析については「マーケティングリサーチ」で学ぶ。

本科目においては、社会調査において必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。推測統計の基本である分散の概念、正規分布の特徴、推定と検定の考え方について理解し、これらに関する問題をExcelを利用して解く事ができる技術を身につける。

「データの種類と尺度について理解し、変数に応じた整理や分析ができる」「二項分布と正規分布の特徴を理解し、問題を解くことができる」「推定と検定の考え方について理解している」

内容	
1	1 データの概念・記述統計と推測統計
2	2 データの尺度
3	3 度数分布とヒストグラム
4	4 データのばらつき(分散と標準偏差)
5	5 いろいろな確率分布
6	6 二項分布
7	7 正規分布(1)
8	8 正規分布(2)
9	9 母集団と標本
10	10 推定(1)
11	11 推定(2)
12	12 検定と帰無仮説
13	13 練習課題
14	14 応用課題
15	15 まとめ

#### 評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 通常授業における課題提出(20%)
- 2 . 最終課題の達成度(80%)とし、総合評価の60点以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】「情報処理演習」で学んだエクセルの復習(2時間)

【事後学修】授業で扱った演習問題の復習(2時間)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない 必要に応じて授業時に配布する

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編（東京大学出版会） 417/T/1

科目名	統計学基礎		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

「情報処理演習」で習得したエクセルの技術を活用して、統計学の基本的な知識を学ぶ。卒業研究などで活用できる実際に分析手法については「社会調査法」で、またアンケート手法とSPSSによる分析については「マーケティングリサーチ」で学ぶ。

本科目においては、社会調査において必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。推測統計の基本である分散の概念、正規分布の特徴、推定と検定の考え方について理解し、これらに関する問題をExcelを利用して解く事ができる技術を身につける。

「データの種類と尺度について理解し、変数に応じた整理や分析ができる」「二項分布と正規分布の特徴を理解し、問題を解くことができる」「推定と検定の考え方について理解している」

内容	
1	1 データの概念・記述統計と推測統計
2	2 データの尺度
3	3 度数分布とヒストグラム
4	4 データのばらつき(分散と標準偏差)
5	5 いろいろな確率分布
6	6 二項分布
7	7 正規分布(1)
8	8 正規分布(2)
9	9 母集団と標本
10	10 推定(1)
11	11 推定(2)
12	12 検定と帰無仮説
13	13 練習課題
14	14 応用課題
15	15 まとめ

#### 評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 通常授業における課題提出(20%)
- 2 . 最終課題の達成度(80%)とし、総合評価の60点以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】「情報処理演習」で学んだエクセルの復習(2時間)

【事後学修】授業で扱った演習問題の復習(2時間)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない 必要に応じて授業時に配布する

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編（東京大学出版会） 417/T/1



科目名	統計学基礎		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

「情報処理演習」で習得したエクセルの技術を活用して、統計学の基本的な知識を学ぶ。卒業研究などで活用できる実際に分析手法については「社会調査法」で、またアンケート手法とSPSSによる分析については「マーケティングリサーチ」で学ぶ。

本科目においては、社会調査において必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。推測統計の基本である分散の概念、正規分布の特徴、推定と検定の考え方について理解し、これらに関する問題をExcelを利用して解く事ができる技術を身につける。

「データの種類と尺度について理解し、変数に応じた整理や分析ができる」「二項分布と正規分布の特徴を理解し、問題を解くことができる」「推定と検定の考え方について理解している」

#### 内容

1	1 データの概念・記述統計と推測統計
2	2 データの尺度
3	3 度数分布とヒストグラム
4	4 データのばらつき(分散と標準偏差)
5	5 いろいろな確率分布
6	6 二項分布
7	7 正規分布(1)
8	8 正規分布(2)
9	9 母集団と標本
10	10 推定(1)
11	11 推定(2)
12	12 検定と帰無仮説
13	13 練習課題
14	14 応用課題
15	15 まとめ

#### 評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 通常授業における課題提出(20%)
- 2 . 最終課題の達成度(80%)とし、総合評価の60点以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】「情報処理演習」で学んだエクセルの復習(2時間)

【事後学修】授業で扱った演習問題の復習(2時間)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない 必要に応じて授業時に配布する

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編（東京大学出版会） 417/T/1

科目名	経営情報システム		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、「情報システム」の知識を経営的な観点で学習する。また、社会人になって、必要となる「情報化に関するビジネス用語」を身につけることを目標とする。

内容は、企業経営と情報システムの関連性について理解する。経営戦略の立案手法を学習し、経営戦略から情報戦略策定する意義を学習する。情報化に関するビジネス用語を学習する。情報システムを活用するための基礎知識を身につける。よいホームページとは、どういうものかを理解した上で、実際にホームページを作成してみる。

内容	
1	ガイダンス
2	経営戦略とは 経営戦略策定手順 経営理念の重要性
3	経営戦略(演習) SWOT分析
4	経営戦略(演習) 事例演習基礎
5	経営戦略(演習) 事例演習応用
6	企業経営と情報システムの関連性
7	まとめ
8	情報戦略とは
9	情報戦略策定
10	事例から学ぶ情報戦略
11	情報化に関するビジネス用語
12	よいホームページとは
13	ホームページ作成(演習)
14	これまでの復習
15	まとめ

#### 評価

途中で理解度を確認し、理解を深めるために、小テストを行う。

評価は、ペーパーテスト(小テスト20%、定期試験30%)、演習時のレポート30%、通常の授業態度10%

3分の2以上出席すること評価を受けることができる。

#### 授業外学習

【事前予習】事前にプリントを読む。

【事後学修】授業中に行った分析を再度行う。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】使用せず。

【推薦書】特になし。

【参考図書】特になし。

科目名	会計学基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

我々の周りには様々なビジネスが存在し、そのビジネスを企業等が支えている。本科目は、この企業等のビジネスによる経営活動を記録、計算し、財務諸表を作成する一連の会計の役割とその基本的仕組みを学修する科目である。本科目では、ビジネスマンに必要な基本的財務諸表を読む力、作成できる力を習得する。

科目の概要：

会計は今や英語、ITと並びビジネスマンの必須である。ビジネスマンとしてのアカウンティング・マインドを身につけるため、本科目では実務を意識して多くの事例を取り入れ、会計の基礎を中心に幅広く学修する。

学修目標：

1. 会計の有用性、基本的任務を理解する。
2. 財務諸表の基礎的分析能力を身につける。
3. 基本的財務諸表の作成ができる。

内容	
1	会計の役割
2	会計制度の仕組み
3	複式簿記の仕組み
4	財務諸表を読む
5	流動資産
6	固定資産
7	純資産と負債
8	収益と費用
9	キャッシュ・フローを読む
10	財務状態を読む
11	収益性を読む
12	原価構造を読む
13	経営管理への役立ち
14	会計と職業
15	まとめ

評価

学習目標に関するレポート・ミニテスト等(20点)、学習目標に基づく期末試験(60点)、通常の授業態度等(20点)により総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】講義で事前に指示された箇所は必ず読んでくること

【事後学修】章末のまとめ、練習問題は必ず復習すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】 全在紋 朴大栄 谷武幸 編著 『新版 まなびの入門会計学』 中央経済社  
その他、適宜、補助レジュメを配布する。

【参考図書】 広瀬義州著 『財務会計＜第11版＞』 中央経済社

科目名	会計学基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格：

我々の周りには様々なビジネスが存在し、そのビジネスを企業等が支えている。本科目は、この企業等のビジネスによる経営活動を記録、計算し、財務諸表を作成する一連の会計の役割とその基本的仕組みを学修する科目である。本科目では、ビジネスマンに必要な基本的財務諸表を読む力、作成できる力を習得する。

##### 科目の概要：

会計は今や英語、ITと並びビジネスマンの必須である。ビジネスマンとしてのアカウントティング・マインドを身につけるため、本科目では実務を意識して多くの事例を取り入れ、会計の基礎を中心に幅広く学修する。

##### 学修目標：

1. 会計の有用性、基本的任務を理解する。
2. 財務諸表の基礎的分析能力を身につける。
3. 基本的財務諸表の作成ができる。

#### 内容

1	会計の役割
2	会計制度の仕組み
3	複式簿記の仕組み
4	財務諸表を読む
5	流動資産
6	固定資産
7	純資産と負債
8	収益と費用
9	キャッシュ・フローを読む
10	財務状態を読む
11	収益性を読む
12	原価構造を読む
13	経営管理への役立ち
14	会計と職業
15	まとめ

#### 評価

学習目標に関するレポート・ミニテスト等(20点)、学習目標に基づく期末試験(60点)、通常の授業態度等(20点)により総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】講義で事前に指示された箇所は必ず読んでくること

【事後学修】章末のまとめ、練習問題は必ず復習すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】 全在紋 朴大栄 谷武幸 編著 『新版 まなびの入門会計学』 中央経済社  
その他、適宜、補助レジюмеを配布する。

【参考図書】 広瀬義州著 『財務会計＜第11版＞』 中央経済社



科目名	簿記演習 1 基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした簿記論の入門科目である。具体的には、複式簿記を中心とした基本的商業簿記の原理、原則と記帳方法を簿記一巡の手続きの中で基本問題および練習問題を通して理解、習得する。

講義では「会计学基礎」の知識を基盤として、簿記の原理をファーストステップからスタートし、分かりやすく解説する。基本問題および数多くの練習問題を解くことにより商業簿記の基本原理や記帳、決算等に関する簿記特有の考え方を理解、把握し、ビジネス・パーソンに必要な簿記実務の初歩レベルを習得する。

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 簿記一巡の全体像を把握する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 財務諸表の理解と基本的財務諸表の作成能力を習得する。

#### 内容

1	資産・負債・純資産と貸借対照表
2	収益・費用と損益計算書
3	取引と取引要素の結合関係
4	勘定と勘定記入法則
5	仕訳と転記
6	仕訳帳と総勘定元帳
7	現金・預金取引の記帳
8	債権・債務取引の記帳
9	商品売買取引と固定資産取得取引の記帳
10	純資産取引の記帳
11	収益・費用取引の記帳
12	決算の意味と決算予備手続き
13	帳簿の締切と繰越試算表
14	損益計算書と貸借対照表の作成
15	まとめ

#### 評価

重要項目に関するミニテスト・レポート等(20%)、通常の授業態度(20%)、学修目標に基づく期末試験等(60%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題までは必ず解いておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『ファーストステップ簿記を学ぶ〔第2版〕』 渡部裕巨編著 中央経済社 1,200円

科目名	簿記演習 1 基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした簿記論の入門科目である。具体的には、複式簿記を中心とした基本的商業簿記の原理、原則と記帳方法を簿記一巡の手続きの中で基本問題および練習問題を通して理解、習得する。

講義では「会計学基礎」の知識を基盤として、簿記の原理をファーストステップからスタートし、分かりやすく解説する。基本問題および数多くの練習問題を解くことにより商業簿記の基本原理や記帳、決算等に関する簿記特有の考え方を理解、把握し、ビジネス・パーソンに必要な簿記実務の初歩レベルを習得する。

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 簿記一巡の全体像を把握する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 財務諸表の理解と基本的財務諸表の作成能力を習得する。

#### 内容

1	資産・負債・純資産と貸借対照表
2	収益・費用と損益計算書
3	取引と取引要素の結合関係
4	勘定と勘定記入法則
5	仕訳と転記
6	仕訳帳と総勘定元帳
7	現金・預金取引の記帳
8	債権・債務取引の記帳
9	商品売買取引と固定資産取得取引の記帳
10	純資産取引の記帳
11	収益・費用取引の記帳
12	決算の意味と決算予備手続き
13	帳簿の締切と繰越試算表
14	損益計算書と貸借対照表の作成
15	まとめ

#### 評価

重要項目に関するミニテスト・レポート等(20%)、通常の授業態度(20%)、学修目標に基づく期末試験等(60%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題までは必ず解いておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『ファーストステップ簿記を学ぶ〔第2版〕』 渡部裕巨編著 中央経済社 1,200円

科目名	簿記演習 1 応用		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

本科目は、「簿記入門」に引き続き、会計学の根幹を成す簿記の原理と理論に関する基礎を複式簿記を中心に体系的に理解、学修することをねらいとする科目である。基本的な簿記取引の処理、記帳方法を習得することが求められる科目である。

##### 科目の概要

「会计学基礎」の知識を基盤として、前半は、期中取引における仕訳と帳簿記入を学修し、後半は諸取引の処理と決算を中心に、日商簿記3級の全範囲を学修していく。

##### 学修目標

1. 簿記一巡という全体像を理解する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 会計記録から財務諸表を作成する能力を習得する。

内容	
1	簿記の意味・目的・種類と基礎概念
2	取引、勘定と仕訳
3	帳簿記入、決算と財務諸表(その1)
4	現金預金取引
5	商品売買
6	売掛金と買掛金
7	その他債権債務
8	手形
9	有価証券
10	固定資産、資本金と引出金
11	収益と費用、税金
12	帳簿と伝票
13	決算と財務諸表(その2)
14	決算と財務諸表(その2の続き)
15	まとめ

**評価**  
学修目標に関するミニテストと課題レポート等(20点)、学修目標に基づく期末試験(60点)、通常の授業態度等(20点)により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

**授業外学習**

【事前予習】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題までは必ず解いておくこと

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】 『検定簿記講義3級商業簿記[平成26年度版』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著 中央経済社  
その他適宜，補助レジユメを用意する。

【参考図書】 『簿記一般教程』 武田隆二著 中央経済社  
その他随時教室にて紹介する。

科目名	簿記演習 1 応用		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

本科目は、「簿記入門」に引き続き、会計学の根幹を成す簿記の原理と理論に関する基礎を複式簿記を中心に体系的に理解、学修することをねらいとする科目である。基本的な簿記取引の処理、記帳方法を習得することが求められる科目である。

#### 科目の概要

「会计学基礎」の知識を基盤として、前半は、期中取引における仕訳と帳簿記入を学修し、後半は諸取引の処理と決算を中心に、日商簿記3級の全範囲を学修していく。

#### 学修目標

1. 簿記一巡という全体像を理解する。
2. 企業活動における会計の記帳方法を理解する。
3. 会計記録から財務諸表を作成する能力を習得する。

内容	
1	簿記の意味・目的・種類と基礎概念
2	取引、勘定と仕訳
3	帳簿記入、決算と財務諸表(その1)
4	現金預金取引
5	商品売買
6	売掛金と買掛金
7	その他債権債務
8	手形
9	有価証券
10	固定資産、資本金と引出金
11	収益と費用、税金
12	帳簿と伝票
13	決算と財務諸表(その2)
14	決算と財務諸表(その2の続き)
15	まとめ

#### 評価

学修目標に関するミニテストと課題レポート等(20点)、学修目標に基づく期末試験(60点)、通常の授業態度等(20点)により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題までは必ず解いておくこと

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト（教科書）】 『検定簿記講義3級商業簿記[平成26年度版』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著 中央経済社  
その他適宜，補助レジュメを用意する。

【参考図書】 『簿記一般教程』 武田隆二著 中央経済社  
その他随時教室にて紹介する。



科目名	簿記演習 2 基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、会計学の根幹を成す簿記の商業簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした科目である。具体的には、「簿記基礎」に引き続き、より複雑な商業活動の記帳方法と決算技法について、幅広く日商3級の範囲を学修するとともに、数多くの練習問題を解くことにより簿記の計算レベルを上げる。

講義では、基本問題のみならず、演習問題、応用問題にまで発展させ、商業簿記の理解をさらに深めていく予定である。また、手形・固定資産の処理、精算表・財務諸表の作成等、重要なテーマについては問題数を増やし、理解を確実なものにしていく。したがって講義の最終段階では、受講者の日商簿記検定3級の確実な合格レベルを目指す。

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 企業取引の内容を理解し、会計処理方法を確実に習得する。
2. 発生主義や実現主義、費用収益の対応等、重要な会計理論を理解する。
3. 財務諸表全体の意味を理解し、応用論点にも対応できる。

#### 内容

1	簿記の基本原理
2	取引、仕訳
3	勘定記入、帳簿
4	現金・現金過不足
5	当座預金・当座借越
6	小口現金、商品売買
7	商品有高帳、売掛金・買掛金
8	その他債権債務、手形(その1)
9	手形(その2)、有価証券、固定資産(その1)
10	固定資産(その2)、資本金と引出金
11	収益と費用、税金、伝票
12	試算表の作成と決算整理手続
13	元帳の締切と財務諸表の作成(その1)
14	元帳の締切と財務諸表の作成(その2)
15	まとめ

#### 評価

ミニテスト・課題レポート等(20%)、通常の授業態度(20%)、学修目標に基づく期末試験(60%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題までは必ず解いておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著（中央経済社）700円

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

科目名	簿記演習 2 基礎		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、会計学の根幹を成す簿記の商業簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした科目である。具体的には、「簿記基礎」に引き続き、より複雑な商業活動の記帳方法と決算技法について、幅広く日商3級の範囲を学修するとともに、数多くの練習問題を解くことにより簿記の計算レベルを上げる。

講義では、基本問題のみならず、演習問題、応用問題にまで発展させ、商業簿記の理解をさらに深めていく予定である。また、手形・固定資産の処理、精算表・財務諸表の作成等、重要なテーマについては問題数を増やし、理解を確実なものにしていく。したがって講義の最終段階では、受講者の日商簿記検定3級の確実な合格レベルを目指す。

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 企業取引の内容を理解し、会計処理方法を確実に習得する。
2. 発生主義や実現主義、費用収益の対応等、重要な会計理論を理解する。
3. 財務諸表全体の意味を理解し、応用論点にも対応できる。

#### 内容

1	簿記の基本原則
2	取引、仕訳
3	勘定記入、帳簿
4	現金・現金過不足
5	当座預金・当座借越
6	小口現金、商品売買
7	商品有高帳、売掛金・買掛金
8	その他債権債務、手形(その1)
9	手形(その2)、有価証券、固定資産(その1)
10	固定資産(その2)、資本金と引出金
11	収益と費用、税金、伝票
12	試算表の作成と決算整理手続
13	元帳の締切と財務諸表の作成(その1)
14	元帳の締切と財務諸表の作成(その2)
15	まとめ

#### 評価

ミニテスト・課題レポート等(20%)、通常の授業態度(20%)、学修目標に基づく期末試験(60%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題までは必ず解いておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著（中央経済社）700円

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

科目名	簿記演習 2 応用		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、会計学の根幹を成す簿記の商業簿記の原理と理論に関する基礎を体系的に学修することを目的とした科目である。具体的には、「簿記基礎」に引き続き、より複雑な商業活動の記帳方法と決算技法について、幅広く日商3級の範囲を学修するとともに、数多くの練習問題を解くことにより簿記の計算レベルを上げる。

講義では、基本問題のみならず、演習問題、応用問題にまで発展させ、商業簿記の理解をさらに深めていく予定である。また、手形・固定資産の処理、精算表・財務諸表の作成等、重要なテーマについては問題数を増やし、理解を確実なものにしていく。したがって講義の最終段階では、受講者の日商簿記検定3級の確実な合格レベルを目指す。

学修目標としては、以下の3点をあげる。

1. 企業取引の内容を理解し、会計処理方法を確実に習得する。
2. 発生主義や実現主義、費用収益の対応等、重要な会計理論を理解する。
3. 財務諸表全体の意味を理解し、応用論点にも対応できる。

#### 内容

1	簿記の基本原理
2	取引、仕訳
3	勘定記入、帳簿
4	現金・現金過不足
5	当座預金・当座借越
6	小口現金、商品売買
7	商品有高帳、売掛金・買掛金
8	その他債権債務、手形(その1)
9	手形(その2)、有価証券、固定資産(その1)
10	固定資産(その2)、資本金と引出金
11	収益と費用、税金、伝票
12	試算表の作成と決算整理手続
13	元帳の締切と財務諸表の作成(その1)
14	元帳の締切と財務諸表の作成(その2)
15	まとめ

#### 評価

ミニテスト・課題レポート等(20%)、通常の授業態度(20%)、学修目標に基づく期末試験(60%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題までは必ず解いておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『検定簿記ワークブック3級商業簿記』 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著（中央経済社）700円

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

科目名	インターネットビジネス		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門科目である。

科目の概要

インターネット上では様々な経済取引が拡大している。そこで、インターネット上での取引に関する問題を幅広く取り上げる。

学修目標(=到達目標)

インターネットに関わるビジネスモデルを理解する。

内容	
1	ガイダンス
2	インターネットの歴史としくみ
3	情報通信産業の規制緩和と競争
4	スマートフォン
5	インターネットと広告
6	SNSと無料通話アプリ
7	検索サイトと広告
8	インターネットと政府
9	ビッグデータとビジネス
10	ポイントサービスとマーケティング
11	インターネットのショッピングサイト
12	仮想通貨
13	インターネットとセキュリティ
14	インターネットと法律
15	まとめ

評価

平常点(10%)、毎回の課題(30%)、最終レポート(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】次週取り上げるテーマのサイト確認。

【事後学修】プリントやサイトで確認。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】特にしていない。

【参考図書】授業中に指示する。



科目名	情報倫理		
担当教員名	石野 榮一		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

「情報倫理」は様々な角度から論じられているが、本講ではメディアからの情報を的確に受け取り、活用できる「情報の賢い受け手」になることを主眼に置く。

#### 科目の概要

情報に関わるということは、「受け手」と「送り手」の2つの側面がある。今後、メディアや情報を専門に学ぶ上で、まずは情報の上手で賢い「受けて」になることが必要と思われる。新聞、テレビの情報(主としてニュース)がどのように収集、編集、発信されるかを学ぶとともに、自ら必要とする情報を的確に選択し、自分なりに解説を加えられる能力を磨く。そのために、毎回の授業では新聞記事のスクラップ作業等を通じて、情報の的確な選択と分析作業に取り組む。また、第一線にいる法律専門家(弁護士)を招き、情報が持つ正と負の側面を実際の事例を通じて学ぶ。

#### 学修目標(=到達目標)

情報化時代に生きる学生、特にメディア・情報を学ぶ学生があふれる情報の中から、自ら必要とする情報を選び、活用する能力を授業を通して培う。今後、専門を学ぶ上で自立した情報の受け手になることを目標とする。

#### 内容

1	授業ガイダンス 講義の進め方・新聞スクラップ作業の説明
2	講義=新聞情報の収集、編集、発信の過程 スクラップ作業
3	講義=テレビ情報の収集、編集、発信の過程 スクラップ作業
4	スクラップ作業と記事解説の発表
5	スクラップ作業と記事解説の発表
6	法律の専門家による事例解説 スクラップ作業
7	スクラップ作業と記事解説の発表
8	スクラップ作業と記事解説の発表
9	法律の専門家による事例解説 スクラップ作業
10	スクラップ作業と記事解説の発表
11	スクラップ作業と記事解説の発表
12	法律の専門家による事例解説 スクラップ作業
13	スクラップ作業と記事解説の発表
14	スクラップ作業と記事解説の発表
15	まとめ テーマを設定したスクラップ作業

#### 評価

毎回のスクラップ内容60点+最終回の記事分析レポート40点=100点とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】毎回の授業では新聞を用意するが、事前に新聞を読むことを勧める(新聞は特に問わない)

【事後学修】授業で興味・関心を持った記事に関し、関連事項を検索し、理解を進める

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 特になし

【推薦書】 授業時に指示

【参考図書】 授業時に指示

科目名	ビジネスと女性		
担当教員名	藤本 正徳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネスコースの選択科目です。現代の日本社会では女性もビジネス社会で活躍するような機会と大きな期待があります。1年次の経営学基礎で学んだ基礎的用語や知識に基づいて、将来の就職や起業などのキャリア形成に役立つような、ビジネスの考え方と基本概念を学ぶ科目です。

科目の概要

人生において重要な意味を持つ、お金、仕事についての意味を考え、次にビジネスの基本についての考え方を学びます。さらに、起業とはどのようなことか、そしてビジネスと企業をマネージし育てていくにはどのような事を考える事が大事かを学びます。

学修目標( =到達目標)

ビジネスとは何か、起業・事業とは何かを学ぶことにより、就職や起業など将来のキャリア形成に必要な知識を理解します。またこれにより経営や会計・マーケティング等の他の関連科目の理解が容易になります。

内容

1	ガイダンス、授業の狙い、授業の進め方、評価方法などについて
2	社会と企業、企業と家計、個人の関係
3	仕事とお金、どうやって決まるのか、報酬と利益
4	お金とライフステージ
5	合理的な人の意思決定の経済理論(1)
6	合理的な人の意思決定の経済理論(2)
7	時間とお金、リスクとリターン、貯蓄と投資
8	起業家の誕生～アイデアをビジネスに
9	ビジネスモデルと基本コンセプト
10	起業で最初にやるべき4つの事
11	個人事業か会社設立か
12	起業のケーススタディ
13	会社の上手な育て方
14	女性とビジネス
15	まとめ

## 評価

授業への取組姿勢40%、レポート提出20%、期末試験40%を目安とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】事前に講義資料をサーバーで目を通しておくこと

【事後学修】授業で学んだ内容を講義思慮うで再確認し、十分理解できな点があれば次回に質問のこと

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】講義資料はパワーポイントで行い、必要に応じて縮刷版を配布する。

【推薦書】追って指示する。

【参考図書】

科目名	ビジネスと女性		
担当教員名	藤本 正徳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

ビジネスコースの選択科目です。現代の日本社会では女性もビジネス社会で活躍するような機会と大きな期待があります。1年次の経営学基礎で学んだ基礎的用語や知識に基づいて、将来の就職や起業などのキャリア形成に役立つような、ビジネスの考え方と基本概念を学ぶ科目です。

#### 科目の概要

人生において重要な意味を持つ、お金、仕事についての意味を考え、次にビジネスの基本についての考え方を学びます。さらに、起業とはどのようなことか、そしてビジネスと企業をマネージし育てていくにはどのような事を考える事が大事かを学びます。

#### 学修目標( = 到達目標)

ビジネスとは何か、起業・事業とは何かを学ぶことにより、就職や起業など将来のキャリア形成に必要な知識を理解します。またこれにより経営や会計・マーケティング等の他の関連科目の理解が容易になります。

内容	
1	ガイダンス、授業の狙い、授業の進め方、評価方法などについて
2	社会と企業、企業と家計、個人の関係
3	仕事とお金、どうやって決まるのか、報酬と利益
4	お金とライフステージ
5	合理的な人の意思決定の経済理論(1)
6	合理的な人の意思決定の経済理論(2)
7	時間とお金、リスクとリターン、貯蓄と投資
8	起業家の誕生～アイデアをビジネスに
9	ビジネスモデルと基本コンセプト
10	起業で最初にやるべき4つの事
11	個人事業か会社設立か
12	起業のケーススタディ
13	会社の上手な育て方
14	女性とビジネス
15	まとめ

評価

授業への取組姿勢40%、レポート提出20%、期末試験40%を目安とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に講義資料をサーバーで目を通しておくこと

【事後学修】授業で学んだ内容を講義思慮うで再確認し、十分理解できな点があれば次回に質問のこと

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】講義資料はパワーポイントで行い、必要に応じて縮刷版を配布する。

【推薦書】追って指示する。

【参考図書】

科目名	企業戦略論		
担当教員名	藤本 正徳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

ビジネス情報コースの選択科目。

#### 科目の概要

多くの企業は組織は、毎年のルーチン行事や事業活動があるが、グローバル化した競争市場で生き残り事業活動を継続拡大させていく為に、5年～10年先の将来を見据えて中長期の骨太のマスタープランを立て、そこに向かって毎年の活動をしています。そのマスタープランを立てるには、企業の活動領域や、競争戦略、組織、商品やマーケティング、投資などについての、自社の強みを伸ばして競争に勝ち抜きしっかりした分析と理論的裏付けが必要となります。企業戦略論では、それらの企業が自分を位置付ける戦略策定のフレームワークとなる主要な概念を学ぶものです。

#### 学修目標(=到達目標)

主要な戦略論を学ぶことにより、変化の激しい社会や市場で、企業やビジネスがどのような方向を目指して活動しているのかの大きな流れを理解するスキルが身につく、身近なビジネスや仕事の考え方にも役立つよう学習します。

#### 内容

主要な理論と概念を、実際の企業での応用事例を交えた集中講義となります。教科書を参考にしながら次のテーマを学びます。

1. 付加価値創造業としての企業経営
2. ステークホルダーとCSR
3. 企業経営におけるリスクマネジメント
4. 複合連立方程式としての企業経営
5. 経営理念と組織の価値観～ケーススタディ
6. 戦略のマネジメント1～全社戦略
7. 戦略のマネジメント2～国際経営論
8. 戦略のマネジメント3～事業戦略論と製品開発論
9. マーケティングのマネジメント～主要な戦略1
10. マーケティングのマネジメント～主要な戦略2
11. 組織のマネジメント1
12. 組織のマネジメント2～ケーススタディ
13. 人材のマネジメント～ケーススタディ
14. 資金のマネジメント～ケーススタディ
15. まとめ

#### 評価

授業への取り組み姿勢 60%、最終試験 40%を目安とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】都度指示する。

【事後学修】授業で学んだ内容を復習し、十分理解できない点があれば次回質問し確認をする

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 日経文庫「企業経営入門」遠藤功（著）

【推薦書】

【参考図書】



科目名	原価計算論		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

原価計算の目的は、真実の原価を確定して財務諸表を作成し、原価分析を経営管理者に提供して業務計画及び原価管理に役立てることである。工業簿記、原価計算においてはこれまでの商品売買業を中心とした商業簿記の学修と異なり商品を自ら製造する企業、いわゆる製造業を前提として学習する科目である。

#### 科目の概要

前半の講義では財貨または用益の消費を貨幣価値的に表した原価の要素について学修し、最も基本的な製造計算方法である個別原価計算を基礎として原価計算精度の概要について学修する。後半の講義ではより複雑な原価計算の形態である部門別原価計算及び総合原価計算を具体的に学修する。

#### 学修目標(=到達目標)

学修目標としては以下の4点をあげる。1.簿記会計の知識を原価計算と融合させ相互に関連付けて理解する。2.原価の適切な分類と集計する能力を養う。3.様々な製造形態に適した原価計算精度を理解する。4.計算された原価を再分析等、内部管理目的に適用できる能力を修得する。

#### 内容

1	工業簿記の基礎
2	工業簿記の感情連絡図、材料費 (材料費の計算)
3	材料費 (予定価格、減耗)
4	労務費
5	経費
6	個別原価計算 (製造間接費の予定配布)
7	個別原価計算 (原価再分析)
8	部門別原価計算 (製造部門と補助部門)
9	部門別原価計算 (製造部門費の予定配布)
10	総合原価計算 (総合原価計算の概要)
11	総合原価計算 (総合原価計算、仕掛品)
12	総合原価計算 (減耗費の計算)
13	総合原価計算 (総合問題)
14	工程別原価計算
15	まとめ

#### 評価

ミニテスト・課題レポート等(20%)、通常の授業態度(20%)、学修目標に基づく期末試験(60%)により総合的に判断して評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】前回の練習問題にもう一度目を通しておくこと

【事後学修】講義で指示された問題までは必ず解いておくこと

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『スッキリわかる日商簿記2級工業簿記』滝澤ななみ著（TAC出版）1,000円

【推薦書】『新検定簿記講義2級工業簿記』平成26年度版 岡本清・廣本敏郎編著（中央経済社）

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

本科目は、3年生の演習 ・ 、4年生の卒業研究 ・ へむけての過程としての位置付けとなり、3・4年生でのゼミナール活動を行う際の基礎知識を身につけます。

科目の概要：

生活者・消費者としての法の世界との出会い、ビジネスパーソンとしての法律との関わりなどを学びます。

科目の目的：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

#### 内容

日常生活でも仕事をしていく上でも重要な「契約」や「紛争解決制度」など身近なテーマを取り上げて法的な基礎知識を身につけます。

参加者は課題の予習を行い、それを踏まえて参加者による積極的な質疑応答・ディスカッションを通じて、理解を深めます。

#### 評価

授業中の発表(30%)・報告・議論への参加態度(30%)、報告レジюме作成・レポート(40%)により評価します。

#### 授業外学習

【事前予習】課題の準備(予習用資料に目を通す、レポート作成、報告レジюмеの準備等)

【事後学修】課題の完成(レポート・レジюмеの加筆修正)および課題の発展

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。また、適宜資料の配布をします。

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	10クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

卒論作成に向けて経済学の基礎を学習する。

科目の概要

基礎的な文献を輪読し、ディスカッションを通して相互理解を深める。

学修目標(=到達目標)

経済学について基礎的な知識を深め、討論できる能力の養成を図る。

内容

日本経済に関する基本的文献や新聞、雑誌等を通して、討論する。また、企業訪問などを通して、現実の経済に触れる。

評価

毎回の出席状況と討論(50%)、演習でのプレゼンテーション(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】政治や経済の新聞、テレビなどの報道を調べる。

【事後学修】演習でのディスカッションを踏まえ、さらに詳しく調査する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業中に指示する。

【推薦書】特に指定しない。

【参考図書】授業中に指示する。

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

2年生までに学習した内容を応用し、就職活動や卒業研究に生かすための授業

現代社会においては、自分の考えや価値観を認識することが必要である。さらにどのような変化にも適応できるためには、独力で新しい物事を学んでいけるだけの強い意志力と柔軟な思考力が求められている。本科目では未知の事態に直面した場合に発揮されるべき認識力、分析力、表現力等を、調査の企画とデータ分析を通して身につけることを目標としている。また就職活動において基礎となるSPIや自己分析に関する活動も行う。

「自分自身について理解し、客観的な分析ができる」「社会におけるデータを整理し、必要な手法を選んで分析ができる」「調査の企画・立案ができる」

#### 内容

- 1 オリエンテーション
- 2 自分を知る：適性テスト  
自分を知る：自己分析
- 3 SPI（数的処理）計算問題  
SPI（数的処理）集合・確率  
SPI（数的処理）理論・その他  
SPI（言語）語彙関係  
SPI（言語）ことわざ・四字熟語
- 4 SPSSによるデータ解析（1）度数分布・基礎統計  
SPSSによるデータ解析（2）クロス表・二乗検定  
SPSSによるデータ解析（3）相関・回帰  
SPSSによるデータ解析（4）平均の差の検定・分散分析
- 5 プレゼン手法

#### 評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 授業に対する意欲と態度（30%）
- 2 . 課題発表の達成度（70%）

とし、総合評価60点以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】データ分析手法の復習

【事後学修】SPSSによる分析手法の復習

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて授業内で指示する

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

本科目は、4年次の卒業研究、 に向けてのファーストステップとして、簿記論等会計学関連科目の基礎知識を習得し、卒業研究等に関する基礎能力を育成する科目である。

##### 科目の概要

前半は、簿記、会計、税務等、実務に直結する一般的な会計関連科目の幅広い基礎知識の習得を目指す。必要な会計関連科目の基礎知識習得後、各自与えられた課題を分析・検討して発表を行い、積極性、分析力、判断力等の育成の他、表現力等プレゼンテーションスキルの上達も試みる。後半は、ゼミの進捗状況により、企業の財務諸表分析、問題点の把握、ソリューションを導き出す能力の育成等、さらなるレベルアップも検討する。また希望者が多ければ日商簿記検定試験等の資格試験対策や模擬面接等の就職活動対策等も考慮する。

##### 学修目標

1. 会計学、簿記論、税法等の科目について基礎知識を習得する。
2. 財務諸表を読み、企業の経営状況を把握する力を身につける。
3. 自ら調査・分析・研究し、卒業研究としてまとめることができる力を養成する。
4. 可能な範囲内での資格取得にチャレンジする。

#### 内容

具体的な演習 の内容は以下のとおりである。初回のオリエンテーションの後、各自半期の学修計画を策定する。演習 ではまず、後期の演習、4年次の卒業研究へのステップとして、税制を含む簿記・会計学関連の基礎知識の確認と修得を目指す。プリント等を配布し、割り当てを受けた担当者が翌週発表するという毎回発表形式で演習を進めていく。夏季休暇には前期のまとめとしての合宿を予定している。また、日商簿記検定試験、BATIC、FP、税理士試験等の資格取得希望者には過去問題の配布、補講等様々な対応が可能である。

#### 評価

課題発表(30%)、レポート作成(30%)、ディスカッション等ゼミ参画態度(40%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】発表者はロスタイムのないように事前に準備・確認等しておくこと
- 【事後学修】発表で指摘を受けた部分は速やかに修正しておくこと

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト等については、ゼミの進捗状況に応じ、授業内で指示する。また、必要に応じて適宜プリントを配布する。

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格：

本科目は、法律をテーマとして取り扱い、各トピックを考察・検討するとともに調査方法を学びます。4年の卒業研究へむけての過程としての位置付けとなります。

##### 科目の概要：

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法を、生活者・消費者的視点から、ビジネスパーソンの視点から考察します。契約を中心として私法の分野からのアプローチをしてゆきます。文献購読、参加者による報告、ディスカッションを通じて、法律とその背景や現在の社会をめぐる状況からその機能・限界を踏まえて展望について研究します。

##### 科目の目的：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

#### 内容

日常生活でも仕事をしていく上でも重要な「契約」や「紛争解決制度」等を素材に研究を進めます。指定の文献を事前に必ず読んでおくことが全員に要求されます。担当レポーターは制度・事案を整理してレジюмеを作成し報告します。それを踏まえて参加者による積極的な質疑応答・ディスカッションを通じて、理解を深めます。後期は、通常の報告と同時並行して卒業研究のテーマ選び、卒業研究のテーマに関する研究・調査の準備を行いません。卒業研究の準備として、選択したテーマにつき、後期終了時まで、各自ゼミ・レポートを作成します。

#### 評価

授業中の発表(30%)・報告・議論への参加態度(30%)、報告レジюме作成・レポート(40%)により評価します。

#### 授業外学習

- 【事前予習】課題の準備(予習資料に目を通す、レポート作成、報告レジюме準備等)
- 【事後学修】課題の完成(レポート・レジюмеの加筆修正)および課題の発展

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。また、適宜資料の配布をします。

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

卒業研究に向けて基礎的な経済学について学習する。

##### 科目の概要

基礎的な文献と輪読し、共通理解を深める。また、東京証券取引所や日銀などを見学し、より学習を進めていく。

##### 学修目標

経済学について基礎的な知識を身につける。

#### 内容

日本経済の基礎的な内容を学習する。特に、日本経済や経営に関する問題などを新聞、雑誌などを読みながら進めていく。また、日本銀行、東京証券取引所などを見学するなどして現実の経済の動きを身近に感じられるようにする。さらに、卒業研究のテーマを決め、研究を進めていく。

#### 評価

プレゼミでの発表(50%)。レポート作成(50%)。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に新聞読む。

【事後学修】授業中に議論した内容をさらに調べる。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。



科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

就職活動や卒業研究に向けた実践力をみにつける授業

現代社会においては、自分の考えや価値観を認識することが必要である。さらにどのような変化にも適応できるためには、独力で新しい物事を学んでいけるだけの強い意志力と柔軟な思考力が求められている。本科目では未知の事態に直面した場合に発揮されるべき認識力、分析力、表現力等を、調査の企画とデータ分析を通して身につけることを目標としている。また就職活動において基礎となるSPIや自己分析に関する活動も行う。

「自己アピールができる」「社会問題について自分の意見や問題意識を発表できる

#### 内容

- 1 オリエンテーション
- 2 自分を知る：エントリーシート作成のための自己分析
- 3 大学生活の振り返り
- 4 卒業研究課題検討
- 5 SPI対策

#### 評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 授業に対する意欲と態度 (30%)
- 2 . 課題発表の達成度 (70%)

とし、総合評価60点以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】自己分析シートの作成(2時間)

【事後学修】卒業研究課題検討

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じて授業内で指示する

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習 は、演習 に引き続き、企業の財務諸表分析や企業経営の考え方を会計、税務の両面から幅広く検討し、課題発表等を通じて考察力、分析力、さらには問題解決能力等を習得する科目である。また、演習 は、翌年の卒業研究へのステップとして位置付け、テーマ設定、研究計画等、卒業研究の準備も行う。

演習 に引き続き、会計学、税制の基礎力の確認を行い、会社の財務諸表分析や企業経営等を検討するが、可能であればさらに国際会計や国際税務戦略、よりレベルの高い資格試験対策等への発展的拡充を試みる。課題発表では、パワーポイント等のソフトウェアを利用して各自、選択可能なテーマの中から発表を行う。課題は会計学、税制の範囲に限らず、幅広い分野からのテーマ設定が可能である。課題発表では、プレゼンテーションやディスカッションを通してスピーディな資料の作成能力や発言力、ソフトウェアを利用した表現力、効果的な発表力等を身につける。

学修目標としては以下の4点をあげる。

1. 財務諸表の基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力の習得。
2. 会計学、税制の基礎知識把握と発展的拡充。
3. 効果的なプレゼンテーション・スキルの向上。
4. 研究に関する基礎能力の育成。

#### 内容

演習 の具体的な内容は以下のとおりである。初回のオリエンテーションの後、翌年の卒業研究を見据えて、前期に学修した演習 の税制を含む簿記・会計学関連の知識をさらに発展させていく。税制に関してはグローバル社会に対応した国際税務の基礎知識も修得する。ゼミの進め方としては、演習 と同様にプリントを配布し、割り当てを受けた担当者が翌週発表するという毎回発表形式で演習 を行っていく。また演習 と同様、日商簿記検定試験、BATIC、FP、税理士試験等の資格取得希望者には過去問題の配布、補講等様々な対応が可能である。後半には翌年の就活を意識し、経済トピックス等の解説や早期内定のための自己分析対策や業界研究、面接試験対策等の就活対策も行う予定である。

#### 評価

課題発表(30%)、レポート作成(30%)、ディスカッション等ゼミナール参画態度(40%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

- 【事前予習】発表者はロスタイムの出ないように事前に準備・確認等しておくこと
- 【事後学修】発表で指摘を受けた部分は速やかに修正しておくこと

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト等については、ゼミの進捗状況に応じ授業内で指示する。また必要に応じ適宜プリントを配布する。

科目名	経営のためのデータ解析基礎		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

「調査と統計」で学んだ統計知識に基づいて「卒業研究」や「マーケティングリサーチ」で活用できる統計分析手法について学ぶ 本科目では、Excelを利用してデータ分析に必要な統計解析手法を学ぶ。例題により分析手法を理解し、練習問題や演習課題を通して実践力を身に着ける。

「Excelをつかってt検定、二乗検定、分散分析、および回帰分析ができる」

「分析結果から有意な差があるか否か、結論を導くことができる」

「分析結果をグラフなどにまとめてレポートを作成できる」

#### 内容

1	1. 平均の差の検定(1) 2群の平均値の比較
2	2. 平均の差の検定(2) 2群の平均値の比較
3	3. 平均の差の検定(3) 対応のあるデータ
4	4. 分散分析(1) 一元配置
5	5. 分散分析(2) 一元配置
6	6. 分散分析(3) 二元配置
7	7. 演習課題
8	8. 二乗検定(1) 度数分布とクロス表
9	9. 二乗検定(2) 適合度の検定
10	10. 二乗検定(3) 独立性の検定
11	11. 相関と回帰(1) 相関関係
12	12. 相関と回帰(2) 回帰分析
13	13. 相関と回帰(2) 回帰分析
14	14. 総合課題
15	15. まとめ

#### 評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 授業における取り組み(30%) 2. 最終課題の達成度(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする

#### 授業外学習

【事前予習】「調査と統計」の内容の復習(2時間)

【事後学修】演習課題・総合課題の復習(2時間)

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に使用しない 必要に応じて授業時に資料を配布

科目名	経営のためのデータ解析基礎		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

「調査と統計」で学んだ統計知識に基づいて「卒業研究」や「マーケティングリサーチ」で活用できる統計分析手法について学ぶ 本科目では、Excelを利用してデータ分析に必要な統計解析手法を学ぶ。例題により分析手法を理解し、練習問題や演習課題を通して実践力を身に着ける。

「Excelをつかってt検定、二乗検定、分散分析、および回帰分析ができる」

「分析結果から有意な差があるか否か、結論を導くことができる」

「分析結果をグラフなどにまとめてレポートを作成できる」

内容

1	1. 平均の差の検定(1) 2群の平均値の比較
2	2. 平均の差の検定(2) 2群の平均値の比較
3	3. 平均の差の検定(3) 対応のあるデータ
4	4. 分散分析(1) 一元配置
5	5. 分散分析(2) 一元配置
6	6. 分散分析(3) 二元配置
7	7. 演習課題
8	8. 二乗検定(1) 度数分布とクロス表
9	9. 二乗検定(2) 適合度の検定
10	10. 二乗検定(3) 独立性の検定
11	11. 相関と回帰(1) 相関関係
12	12. 相関と回帰(2) 回帰分析
13	13. 相関と回帰(2) 回帰分析
14	14. 総合課題
15	15. まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 授業における取り組み(30%) 2. 最終課題の達成度(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする

授業外学習

【事前予習】「調査と統計」の内容の復習(2時間)

【事後学修】演習課題・総合課題の復習(2時間)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に使用しない 必要に応じて授業時に資料を配布

科目名	経営のためのデータ解析応用		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

ビジネス情報コース専門科目「コース必修」の2年次配当必修科目である。1年次配当選必修科目である「経営のためのデータ解析基礎」では統計手法を用いた量的調査の技法を学ぶのに対して、事例による質的調査の技法を学ぶ。

#### 科目の概要

社会調査には統計処理を前提としてデータを扱う量的調査と、事例データを社会的文脈に即して分析する質的調査の2つのタイプがある。この授業では、ドキュメント分析、インタビュー調査、非参与観察、参与観察といった質的調査の技法を学ぶ。それぞれの単元毎に課題提出があり(自分史の分析、インタビュー調査の設計、タウンウォッチングの設計、参与観察の設計)、学期末には、実際にいずれかの方法で質的調査を実施した結果をレポートにして提出する。

#### 学修目標

社会調査の中でも質的調査について、その基本概念と先行事例を学び、自ら質的調査を設計して実践する技術を習得する。

#### 内容

1	はじめに(質的調査の基本的性格)
2	ドキュメント分析1:公的記録の分析(広報や新聞など)
3	ドキュメント分析2:私的記録の分析(日記・ブログ、手紙・電子掲示板など)
4	ドキュメント分析3:私的記録の分析(自分史の分析)
5	インタビュー調査1:インタビューの種類(構造化面接と非構造化面接)
6	インタビュー調査2:インタビュー調査の事例1(ライフヒストリー)
7	インタビュー調査3:インタビュー調査の事例2(フォーカス・グループ・インタビュー)
8	インタビュー調査4:インタビュー調査の設計
9	非参与観察1:非参与観察の事例(タウンウォッチング)
10	非参与観察2:非参与観察の設計(タウンウォッチングの計画)
11	参与観察1:参与観察の事例(ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』)
12	参与観察2:参与観察の技法(フィールドノーツの書き方)
13	参与観察3:参与観察の設計(イベント参加やボランティア体験など)
14	質的調査と倫理
15	総括

#### 評価

授業時の課題提出50点、学期末レポート50点として、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】学内ネットワークの授業用フォルダに置いてある資料を予習する。

【事後学修】授業時の課題を仕上げ指定のフォルダに提出する。

【参考図書】

桜井 厚（2002）『インタビューの社会学』せりか書房。

桜井 厚訳（1983）W. I. トマス / F. ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房。

中野 卓（1979）『口述の生活史』御茶の水書房。

寺谷弘士訳（1979）W. F. ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』垣内出版。

佐藤郁哉（1992）『フィールドワーク』新曜社。

社会調査協会編（2014）『社会調査事典』丸善出版。

科目名	経営のためのデータ解析応用		
担当教員名	大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

ビジネス情報コース専門科目「コース必修」の2年次配当必修科目である。1年次配当選必修科目である「経営のためのデータ解析基礎」では統計手法を用いた量的調査の技法を学ぶのに対して、事例による質的調査の技法を学ぶ。

#### 科目の概要

社会調査には統計処理を前提としてデータを扱う量的調査と、事例データを社会的文脈に即して分析する質的調査の2つのタイプがある。この授業では、ドキュメント分析、インタビュー調査、非参与観察、参与観察といった質的調査の技法を学ぶ。それぞれの単元毎に課題提出があり(自分史の分析、インタビュー調査の設計、タウンウォッチングの設計、参与観察の設計)、学期末には、実際にいずれかの方法で質的調査を実施した結果をレポートにして提出する。

#### 学修目標

社会調査の中でも質的調査について、その基本概念と先行事例を学び、自ら質的調査を設計して実践する技術を習得する。

#### 内容

1	はじめに(質的調査の基本的性格)
2	ドキュメント分析1: 公的記録の分析(広報や新聞など)
3	ドキュメント分析2: 私的記録の分析(日記・ブログ、手紙・電子掲示板など)
4	ドキュメント分析3: 私的記録の分析(自分史の分析)
5	インタビュー調査1: インタビューの種類(構造化面接と非構造化面接)
6	インタビュー調査2: インタビュー調査の事例1(ライフヒストリー)
7	インタビュー調査3: インタビュー調査の事例2(フォーカス・グループ・インタビュー)
8	インタビュー調査4: インタビュー調査の設計
9	非参与観察1: 非参与観察の事例(タウンウォッチング)
10	非参与観察2: 非参与観察の設計(タウンウォッチングの計画)
11	参与観察1: 参与観察の事例(ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』)
12	参与観察2: 参与観察の技法(フィールドノーツの書き方)
13	参与観察3: 参与観察の設計(イベント参加やボランティア体験など)
14	質的調査と倫理
15	総括

#### 評価

授業時の課題提出50点、学期末レポート50点として、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】学内ネットワークの授業用フォルダに置いてある資料を予習する。

【事後学修】授業時の課題を仕上げ指定のフォルダに提出する。



【参考図書】

桜井 厚（2002）『インタビューの社会学』せりか書房。

桜井 厚訳（1983）W. I. トマス / F. ズナニエツキ『生活史の社会学』御茶の水書房。

中野 卓（1979）『口述の生活史』御茶の水書房。

寺谷弘士訳（1979）W. F. ホワイト『ストリート・コーナー・ソサエティ』垣内出版。

佐藤郁哉（1992）『フィールドワーク』新曜社。

社会調査協会編（2014）『社会調査事典』丸善出版。

科目名	運営管理論基礎		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営科学の基本的な考え方と分析方法を学習する。

経営科学とは、経営上の問題を対象に、問題の要因と問題との関係を特定して数学的なモデルを構築し、そのモデルから導かれる解を現実の問題解決に役立てようとするものである。本講義では、統計学の復習から始めて、時系列分析と回帰分析による需要予測、在庫問題、線形計画法などについて学ぶ。

分析手法を理解し、Excel を用いてシミュレーションする方法を習得する。講義に加えてExcelでの演習を課すことで、典型的な問題をコンピュータを用いて自分で解決できるようになることを目標とする。

#### 内容

- 1) 経営科学の概要
- 2) 統計学復習(1) 度数分布
- 3) 統計学復習(2) 統計的推測と検定
- 4) 時系列分析
- 5) 回帰分析
- 6) Excel による実習
- 7) 在庫管理
- 8) Excel による実習
- 9) 線形計画法(1) グラフによる理解
- 10) 線形計画法(2) シンプレックス法
- 11) Excel による実習
- 12) 待ち行列問題の概要
- 13) 待ち行列理論
- 14) シミュレーション
- 15) Excel による実習

#### 評価

演習などにおける授業態度(30%)

レポート課題(70%)

合計で60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】事前にプリントを読む。

【事後学修】授業で行った演習を再度行う。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	簿記演習 3 中級		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

本科目は、「簿記初級」の知識に引き続き、会計学の根幹を成す簿記の原理と理論を体系的により深く学修することを目的に、企業のさらに複雑な商業活動の記帳方法と決算技法を習得する科目である。

##### 科目の概要

具体的には、日商簿記検定試験 2 級の商業簿記の範囲に沿って、会計に関する深い考察力と応用力を養っていく。検定試験に必要な問題料確保のため、講義ではテキストの問題の他、プリント配布による練習問題も予定している。

##### 学修目標

複雑な企業取引の内容を把握し、会計処理方法を十分に理解する。また企業取引の複合的な応用論点への対応力も習得する。講義終了時点では、日商簿記検定商業簿記 2 級の合格レベルを目標とする。

内容	
1	簿記一巡の手続
2	現預金取引
3	有価証券取引
4	債権・債務取、手形取引(その1)
5	手形取引(その2)、引当金取引
6	商品売買取引
7	特殊商品売買取引(その1)
8	特殊商品売買取引(その2)
9	固定資産取引、損益取引
10	株式会社会計(その1)
11	株式会社会計(その2)
12	決算(その1)
13	決算(その2)
14	本支店会計
15	まとめ

#### 評価

ミニテスト・課題レポート等(20%)、通常の授業態度(20%)、学修目標に基づく期末試験(60%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】学習のポイントは必ず読んでくること

【事後学修】講義で指示された問題までは必ず解いておくこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『検定簿記講義2級商業簿記[平成26年度版]』 渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著（中央経済社） 700円

【推薦書】 『簿記一般教程』 武田隆二著（中央経済社）

科目名	企業情報システム基礎		
担当教員名	藤本 正徳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネスコースの選択科目です。すでに「経営学基礎」や「簿記」基礎科目を履修した学生を対象に、企業・会社においては仕事はどのような流れで動いており、そこで流れいているお金や情報はどのように扱われているのかを学ぶ科目です。

科目の概要

現代企業では、製造、仕入れ、販売、代金回収など社外の多くの関係先と取引しており、また多くの社員への給料の支払いも行われています。これらの日々の企業活動に伴う取引と、物とお金の流れは、サプライチェーンマネジメントシステム、在庫管理システム、販売管理システム、経理・財務管理システムなどで、正確かつ効率的に管理され、決算書など企業情報としてまとめられて株主や銀行などの取引先に報告されます。これら会社におけるビジネスと仕事の流れ、そしてそれらの情報がどのように扱われているかを体系的に学ぶ科目です。

学修目標( =到達目標)

産業界や企業における仕事の仕組み・情報の流れを俯瞰的に学ぶことにより、他の専門科目との相関関係が理解しやすくなり、就職前に会社についての正しい理解を持つことができます。

内容	
1	ガイダンス、授業の狙い・進め方、評価方法など
2	企業とは何か(1) 株式会社の基本
3	企業とは何か(2) 取引先と仕事のながれ
4	企業とは何か(3) 組織と人々
5	企業活動と情報、ビジネスプロセスと情報の関係、ITの活用
6	マーケティングと顧客管理・販売管理
7	工場生産と仕入、在庫管理
8	輸送とロジスティクス~宅急便
9	金融・ファイナンス取引システム
10	インターネット取引と情報システム
11	財務・会計システム
12	人事・労務・給与管理システム
13	企業統合情報システムの種類と企業での採用
14	経営計画と予算、予算と実績管理、決算報告
15	まとめ

## 評価

授業への取組姿勢 40%、レポート 20%、期末試験 40%を目安とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】授業前にサーバーで講義資料に目を通しておくこと

【事後学修】授業で学んだ内容を講義資料で再確認し、十分理解できない点があれば次回に質問のこと

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】パワーポイントによる講義資料。必要に応じて縮刷版を配布。

【推薦書】最初の授業で指示します。

【参考図書】

科目名	企業情報システム基礎		
担当教員名	藤本 正徳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネスコースの選択科目です。すでに「経営学基礎」や「簿記」基礎科目を履修した学生を対象に、企業・会社においては仕事はどのような流れで動いており、そこで流れいているお金や情報はどのように扱われているのかを学ぶ科目です。

科目の概要

現代企業では、製造、仕入れ、販売、代金回収など社外の多くの関係先と取引しており、また多くの社員への給料の支払いも行われています。これらの日々の企業活動に伴う取引と、物とお金の流れは、サプライチェーンマネジメントシステム、在庫管理システム、販売管理システム、経理・財務管理システムなどで、正確かつ効率的に管理され、決算書など企業情報としてまとめられて株主や銀行などの取引先に報告されます。これら会社におけるビジネスと仕事の流れ、そしてそれらの情報がどのように扱われているかを体系的に学ぶ科目です。

学修目標( = 到達目標)

産業界や企業における仕事の仕組み・情報の流れを俯瞰的に学ぶことにより、他の専門科目との相関関係が理解しやすくなり、就職前に会社についての正しい理解を持つことができます。

内容	
1	ガイダンス、授業の狙い・進め方、評価方法など
2	企業とは何か(1) 株式会社の基本
3	企業とは何か(2) 取引先と仕事のながれ
4	企業とは何か(3) 組織と人々
5	企業活動と情報、ビジネスプロセスと情報の関係、ITの活用
6	マーケティングと顧客管理・販売管理
7	工場生産と仕入、在庫管理
8	輸送とロジスティクス~宅急便
9	金融・ファイナンス取引システム
10	インターネット取引と情報システム
11	財務・会計システム
12	人事・労務・給与管理システム
13	企業統合情報システムの種類と企業での採用
14	経営計画と予算、予算と実績管理、決算報告
15	まとめ



## 評価

授業への取組姿勢 40%、レポート 20%、期末試験 40%を目安とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】授業前にサーバーで講義資料に目を通しておくこと

【事後学修】授業で学んだ内容を講義資料で再確認し、十分理解できない点があれば次回に質問のこと

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】パワーポイントによる講義資料。必要に応じて縮刷版を配布。

【推薦書】最初の授業で指示します。

【参考図書】

科目名	企業情報システム応用		
担当教員名	藤本 正徳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

ビジネスコースの選択科目です。すでに「経営学基礎」や「簿記」「会計学基礎」を履修した学生を対象に、企業・会社においては仕事はどのような流れで動いており、そこで流れているお金や情報はどのように扱われ、企業会計原則に基づいて計上され、決算書に反映されていくかを学ぶ科目です。

#### 科目の概要

現代企業では、製造、仕入れ、販売、代金回収など社外の多くの関係先と取引しており、また多くの社員への給料の支払いも行われています。これらの日々の企業活動に伴う取引と、物とお金の流れは、サプライチェーンマネジメントシステム、在庫管理システム、販売管理システム、経理・財務管理システムなどで、正確かつ効率的に管理され、決算書など企業情報としてまとめて株主や銀行などの取引先に報告されます。これら会社におけるビジネスと仕事の流れ、そしてそれらの情報がどのように扱われているかを体系的に学ぶ科目です。

#### 学修目標( = 到達目標)

産業界や企業における仕事の仕組み・情報の流れを俯瞰的に学ぶ事により、他の専門科目との相関関係が理解し易くなり、就職前に会社についての正しい理解を持つ事ができます。

内容	
1	ガイダンス、授業の狙い・進め方、評価方法など
2	企業とは何か(1)株式会社の基本
3	企業とは何か(2)取引先と仕事のながれ
4	企業とは何か(3)組織と人々
5	企業活動と情報、ビジネスプロセスと情報の関係、ITの活用
6	マーケティングと顧客管理・販売管理
7	工場生産と仕入れ、在庫管理
8	輸送とロジスティクス～宅急便
9	金融・ファイナンス取引システム
10	インターネット取引と情報システム
11	財務・会計システム, 損益計算書、貸借対照表
12	人事、労務、給与管理システム
13	企業統合情報システムの種類と企業での採用
14	経営計画と予算、予算と実績管理、決算報告
15	まとめ

評価

授業への取組み姿勢 40%、レポート 20%、最終試験 40%を目安とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業前にサーバーで講義資料に目を通しておく事

【事後学修】授業で学んだ内容を講義資料で再確認し、十分理解できない点があれば次回に質問のこと

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】パワーポイントによる講義資料。必要に応じて縮刷版を配布。

【推薦書】最初の授業で指示します。

【参考図書】

科目名	ブランド戦略論		
担当教員名	崎山 嗣夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

当該授業は企業が長年に渡り社会で事業を営む上で必須となる「ブランド」の開発・育成について講義を行う。従って、企業活動を理解する上で必要な知識を得るため、「経営学」「マーケティング」「組織論」等の科目を履修することは大切。

#### 科目の概要

企業の維持・成長は多くの顧客からの支持なくして成立しない。従って、顧客から評価される「ブランド」の確立は重要な要件。そのため当該授業では「ブランド」の開発・育成に必要な全ての概念・考え方・手法について説明する。

#### 学修目標(=到達目標)

「ブランド戦略」を通して企業活動の多くを理解することで、就職活動時の大きな助けとなる。  
 企業が市場で展開している様々な商品の意義を知ること、日常の消費生活を豊かに出来る。  
 ブランド開発時に必要なアイデアが生まれる過程を修得することで、社会を見る目を養うことが出来る。

内容	
1	講義の全体像の説明、及び「ブランド」とは何かについて解説。
2	ブランド開発に必要なマーケティングへの理解 マーケティングの理解
3	ブランド開発に必要なマーケティングへの理解 マーケティングと企業活動
4	ブランド開発に必要な「今、日本で「何が」起きているか」を具体的な事例を上げて解説
5	ブランド開発に必要な「今、日本で「何が」起きているか」を具体的な事例を上げて解説
6	今日の日本における「ブランド」開発・育成の必要性について解説
7	今日の日本における「ブランド」開発・育成の必要性について解説
8	「マーケティング」を活用した「ブランド」開発・育成の全体像について解説
9	「ブランド」を確立させるために必要な要素・要件を様々な視点から解説
10	グローバルで代表的なブランドである「ルイ・ヴィトン」の成功について解説
11	「ブランド」確立に必要な「商品開発」の具体的手法・考え方について解説
12	開発した「ブランド」の育成に関する考え方・手法について様々な角度から解説
13	「商品開発」の際に重要な要件となる「リサーチ」との関係について解説
14	「ブランド」確立に必須な創造的な組織のあり方について解説
15	まとめ

#### 評価

授業への参加30%・数回にレポート20%・筆記試験50%..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

### 【事前予習】

毎回の講義終了時に、次回の講義内容を説明し、予習の要点を指示する。

### 【事後学修】

毎回配布する資料で、講義内容を復習する。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

### 【教科書】

「目盛りを変えろ日本が見える」著者：崎山 嗣夫（日本経済新聞社刊）

「企業改革への道－消費者視点からの発想－」著者：崎山 嗣夫（日本経済新聞社刊）

### 【推薦書】

講義の都度、教室で紹介

### 【参考図書】

講義の都度、教室で紹介

科目名	国際経営論		
担当教員名	笠原 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

< 科目の性格 > 世界的な高度情報ネットワーク社会の進展と企業のグローバル化の急速な展開は、従来の年功序列、終身雇用といった日本的慣行をも崩壊させ、個々の従業員の能力が問われる時代を日本企業は迎えている。本講では、こうした企業のグローバル化が生じた理由および企業経営の変遷を大企業を事例にして概説し、さらに国際経営戦略論の立場から問題点を検討して、地球企業社会の方向性を明示する。これにより就職先決定へのヒントを提示するとともにグローバル社会で働く意義を理解させる。

< 科目の概要 > 経営学は他の学問と異なり絶対原理はない。個々の企業の盛衰は個々の状況によって異なるゆえ、ケース・スタディ - (事例研究) によって検証する方法を採る。本講では、多数の事例をあげて国際経営および経営の基礎をわかりやすく解説し、就職で有利になるよう導く。最後に私の専門とするホテル、航空会社業界の問題点も加えて、グローバル企業の方向性を多角的に検討する。

< 学修目標 (=到達目標) >

- 1 世界のグローバル化の潮流および国際経営の必要性を理解する
- 2 企業社会でのグローバルな人材としてのセンスを身につけ、就職先決定へのヒントを得る
- 3 人間はなぜ働き、企業は成長しなければならないかを理解する
- 4 異文化経営の問題、とくに日本的経営の特徴について深く理解する
- 5 BOPビジネスを例にグローバル化による経済格差(貧困層)の解決策を考える

内容

1	企業とは何か。経営とは何か。 -夢を実現させる方法- (事例:東京ディズニーリゾート)
2	経営学の誕生とその必要性 ? 経営学を学ぶ意味- (事例:ハーバード大学)
3	国際企業に至るまでのプロセスとその戦略 -日本発のコンビニ- (事例:セブンイレブン)
4	日本企業の国際化戦略1 ? この世にないモノを創造する- (事例:ソニー)
5	日本企業の国際化戦略2 ? 人間はなぜ働くのか- (事例:ホンダ)
6	日本企業の国際化戦略3 ? デザインが命- (事例:日産)
7	日本企業のグローバル戦略 ? 協働の強さ- (事例:トヨタ、富士通)
8	日本的経営の原理とその海外移転 ? 日本人はなぜコンパが好きなのか-
9	米国経営学の系譜 ? 人間はなぜサボるのか、そしてやる気を起こすには-
10	米国巨大企業のグローバル戦略 ? No.1になるとなぜ得なのか- (事例:GE)
11	米国巨大グローバルIT企業の実態 ? カリスマ経営者の夢- (事例:アップル)
12	起業経営とグローバル・ボーンカンパニー ? 会社を創る意義- (事例:HP、グーグル)
13	グローバルリーダーの条件 ? 家族の父親と母親、そして経営者、政治家に共通するもの-
14	グローバル・サービス産業 ? 航空業界の将来、CAはどうなるの?- (事例:日本航空)
15	総括 グローバル格差社会とBOPビジネス -世界の貧困層をどう救うか- (ユニクロ他)

評価

学修目標に関するレポート（40点）、出席票裏に課す小テストを含む授業への参加度（60点）で総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業後半に、次週の授業概要を説明し、予習として次週授業に関連する新聞記事（日本経済新聞）を蒐集させる。

【事後学修】課題として、授業内の疑問点の確認作業を義務づけ、さらに授業内容と「将来のキャリア形成」との関連を考えさせる。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】加藤茂夫編、笠原伸一郎ほか著『経営入門 -よい経営の創り方、よい経営の学び方』（学文社）

【推薦書】笠原伸一郎著『グローバル企業の史的展開』（中央経済社）、笠原伸一郎編『図説 国際ビジネス』（中央経済社）、江夏健一編『新版 理論とケースで学ぶ国際ビジネス』（同文館出版）335.5/R 【参考図書】ジェフリー・ジョーンズ著『ビューティビジネス』（中央経済社）日経新聞、その他授業中に指示する。

科目名	企業の危機管理		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

経済学的な視点からの企業や産業を取り上げる。

#### 科目の概要

日本企業におけるコーポレートガバナンスをアメリカとの比較で行う。また、企業が立ち向かう様々な危機を具体的に取り上げ、どのようにその危機を乗り越えていくかを検証していく。また、近年話題のM&Aや会社法改正についても取り上げる。さらに、雇用の問題を企業側、労働者側双方から見ていく。

#### 学修目標

企業論に関する基礎的な概念と、現在の企業が抱えている諸問題について理解することを目標にする。

#### 内容

1	ガイダンス
2	株式会社とは何か
3	株式会社の歴史
4	株式会社のしくみ
5	コーポレートガバナンス
6	CSR
7	内部統制
8	敵対的買収
9	日本的経営
10	日本的雇用慣行
11	正規雇用と非正規雇用
12	企業不祥事
13	日本とアメリカの経営比較
14	日本産業の特徴
15	まとめ

#### 評価

平常点(10%)、中間のレポート(40%)、最終のレポート(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】事前に配布されたプリントを読む。



【事後学修】事後に各企業について自ら調べる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

開講時に指示する。

科目名	企業倫理		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

学生が、アルバイト等で既に接している企業、そして将来、多くの学生が、就職等で一員となる企業(会社)が、社会からどのような倫理行動を要求されているのか、更には、そのメンバーとして、どのような事が求められ、どのような事が禁止されているかを、理解して貰う講座である。特に、企業の一員としての将来を考えている学生には、必須の内容と言える。

企業は本来、顧客の満足を収益という形で得る事が最大目的の集団である。しかしながら、今日、社会に対する企業活動の影響力は日に日に増大、一方、企業経済の自由度は拡大、企業も自己責任型の経営が求められている。その結果、企業も社会の一員として務めを果たす事が、必須条件となっている。企業のちょっとした、配慮の不足した、倫理に反した行動が、最悪当該企業の経営破たんとなる事例が散見される。本講座では、学生参加型の授業運営で、社員が守るべき事、企業が守るべき事を習得していく授業展開を目指す。

社会の一員としての企業が、守り実施すべき企業倫理の本質を理解するとともに、社員として要求される事も合わせて理解する。更に、関連するコーポレートガバナンス、コンプライアンス、環境マネジメント、CSR(企業の社会的責任など)についても理解する。

内容	
1	ガイダンス(授業の進め方、企業とは?企業倫理とは?コンプライアンスとは?)
2	企業不祥事1
3	企業不祥事2
4	企業不祥事3(どうして企業倒産にまで至るのか?)
5	企業倫理を求められる実情、コンプライアンスは企業存続に不可欠?
6	企業活動と法律の関係は?
7	コンプライアンスとは
8	コンプライアンスの法令(事業活動において、消費者に対して)
9	コンプライアンスの法令(従業員に対して、インターネット、その他)
10	企業におけるコンプライアンス活動の実践1
11	コンプライアンス活動実践2
12	コンプライアンスと内部統制、CSRの関係
13	企業における企業倫理確立、コンプライアンス体制づくり
14	企業倫理の実践
15	まとめ

#### 評価

平常点60点(授業参加姿勢、随時小レポートなど)、期末テスト40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】世間で企業が起こす不祥事の例を新聞等で把握しておく。

【事後学修】色々な企業のホームページから、それぞれの企業のコンプライアンス体制、倫理方針等を確認する。

確認す

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業の進展、必要に応じて適宜、紹介していく。但し、講義の始まる9月末に備えて、夏休みの間に次の本を一読する事を推薦する。 田中宏司著・実践！コンプライアンス・PHP研究所

科目名	マーケティングリサーチ		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

「調査と統計」ならびに「社会調査法」で学んだ統計学の知識をいかして、実践的な調査技法を学び、「卒業研究」などに応用できるようにする。本科目は、世界的に多様な分野において利用されている統計パッケージSPSSを用いて、実践的なマーケティングリサーチの手法について学ぶことを目的としている。マーケティングリサーチの手順と方法について知ると共に、調査票の作成、調査の実施、データ分析、発表の一連の作業について実習を行い、実践力を身につける。「アンケートを作ることができる」「変数に応じた分析のための入力フォーマットを作成できる」「SPSSを利用してアンケートデータの分析ができる」「分析結果をグラフや表にまとめてプレゼンテーションを利用して発表できる」

内容	
1	1 マーケティングリサーチとはなにか
2	2 リサーチプロセスと課題の発見
3	3 リサーチデザインとデータ収集
4	4 質問紙の作成(1)技法
5	5 質問紙の作成(2)演習
6	6 調査の実施とデータ入力
7	7 SPSSによる調査データ処理(1)
8	8 SPSSによる調査データ処理(2)
9	9 SPSSによる調査データ処理(3)
10	10 表とグラフの作成
11	11 プレゼンテーション作成技法(1)
12	12 プレゼンテーション作成技法(2)
13	13 課題発表(1)
14	14 課題発表(2)
15	15 まとめ・ふりかえり

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 通常授業におけるとりくみ(30%)
- 2 . 最終課題の達成度(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】統計分析手法の復習(2時間)
- 【事後学修】SPSSによる分析手法の復習(2時間)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【参考図書】『SPSS でやさしく学ぶ統計解析』室・石村著(東京書籍) 417/M

科目名	消費者と法		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

ビジネス情報コース 選択科目 経営科目群のなかの、選択必修科目である。

#### 科目の概要

私たちは、通信販売で洋服を買う、映画を見る、旅行会社でツアーに申し込む、電車にのるといったあらゆる日常生活の場面で私たちは誰もが「消費者」として生活している。つまり「事業者」から物やサービスを購入し、利用しているのである。しかし、販売方法も多様化し、社会も複雑化している状況の下、大量生産・大量販売といった機能が事業者により一方的に担われている。そして、消費者と事業者には情報力・経済力等の格差が存在する。そのため、様々な消費者トラブルが発生する可能性が常にある。そこで、消費者トラブルの発生しやすい場面や現代的な課題を取り扱い、紛争解決の仕組みを検証する。

#### 科目の目標

日常の消費生活において消費者を事業者から守る法律とその意義、各種悪徳商法の対策と法、トラブル発生後の消費者救済の仕組みについて学ぶ。また、賢い消費者としての必要な知識を身につけ、消費者トラブルと法の機能と限界について説明できるようにする。また、知識取得のみならず、消費者問題に関連する新聞記事などを利用し文章読解能力・文章表現力を身につけ、また事例を検討することにより論理的思考力や課題解決力の養成も目指します。

#### 内容

1	【総論】消費者法 ガイダンス、消費者と事業者、民法
2	【総論】消費者契約法 悪徳商法と消費者
3	【総論】特定商取引法 訪問販売、クーリング・オフ
4	【各論】高齢者・未成年者の法律問題
5	【各論】金融機関と消費者問題
6	【各論】信用取引と消費者問題
7	【各論】破産・倒産と消費者
8	【各論】マルチ商法・ネズミ講
9	【各論】不動産と消費者問題(前半)
10	【各論】不動産と消費者問題(後半)
11	【各論】情報化社会と消費者問題
12	【紛争解決と消費者】裁判所と消費者、裁判所以外の窓口(ADR)と消費者
13	【紛争解決と消費者】行政と消費者
14	【紛争解決と消費者】教育と消費者
15	まとめ

#### 評価

提出物・授業態度(50点)、ペーパーテスト(50点)を総合して評価する。

100点満点中60点が単位取得の下限となる。

#### 授業外学習

【事前予習】課題（授業中指示された課題、資料を読む等）の準備をする

【事後学修】学んだことを踏まえ、消費者と法の課題について関心と理解を深める。

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

開講時に指示する。その他、必要に応じて適宜資料を配布する。

科目名	ビジネス実務法務初級		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性質

コース専門科目の「経営科目群」に位置づけられる。「消費生活と法」などとともに履修するとビジネスを行う上での法的課題を経営者側・消費者側双方の視点で検討でき、理解が深まる。

#### 科目の概要

金融業・不動産業・各種販売サービス業などお金が動くビジネスの場面を想定し、関連する法律と問題解決法について学び、ビジネス社会を生きるための法的な教養を身につける。具体的な事例を想定しながら債権法、物権法、担保物権法や民法の特別法がビジネス社会のなかで実際にどのように活用されているのか、その限界や課題はどこにあるのかについての理解を深める。また、知的財産権法や個人情報保護法といった情報化社会と関連する法律とビジネスとの関係についても言及し、ビジネス社会のなかでの法の役割について検証する。

#### 学習目標

- ・ビジネスに関連する基本的な法律の知識と教養を身につける。
- ・事例を検討することにより、論理的思考力や課題解決力の養成を目指す。
- ・事例や時事問題を利用し、文章読解力・文章表現力を身につける。

内容	
1	ガイダンス 会社と法律との関係
2	会社と法律との関係
3	会社組織に関する法律
4	会社組織に関する法律
5	人事・労務に関する法律
6	人事・労務に関する法律
7	財産に関する法律
8	財産に関する法律
9	取引関係の法律
10	取引関係の法律
11	取引関係の法律
12	債権管理に関する法律
13	債権管理に関する法律
14	ビジネスと紛争処理
15	総括

#### 評価

レポート、ワークシート等の提出物・受講態度(50点)、ペーパーテスト(50点)を総合して評価する。100点満点中60点が単位取得の下限である。

## 授業外学習

【事前予習】課題（授業中指示された課題、資料を読む等）の準備をする

【事後学修】学んだことを踏まえ、ビジネスと法の課題について関心と理解を深める

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

開講時に指示する。



科目名	意思決定手法基礎		
担当教員名	安田 順		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選必,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報)/ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

この科目は、生活情報学科の専門科目「キャリアを形成する」の中で自己能力開発を行う基盤となる授業である。

##### 科目の概要

問題解決について概説した上で、日常生活・社会の現場のどちらにおいても活かせる実践的な手法を体験的に学ぶ。その上で、問題解決の原則について、何が本質的に効果的なのかを考察し、自らの問題解決についての考え方を深める。

##### 学修目標(=到達目標)

授業で取り上げられるさまざまな事例を自分の身に引きつけて考え、グループで成果を出すことを志向し授業に積極的に参加することが求められる。

#### 内容

1	オリエンテーション
2	問題とは
3	問題解決とは
4	問題解決の手法(1)手法の概観
5	問題解決の手法(2)収束的思考
6	問題解決の手法(3)拡散的思考
7	問題解決の原則(1)成功事例の活用
8	問題解決の原則(2)目的の明確化
9	問題解決の原則(3)あるべき姿の探求
10	問題解決の原則(4)システム化
11	問題解決の原則(5)専門性
12	問題解決の原則(6)集団思考
13	問題解決の原則(7)変化の継続
14	問題解決の応用場面
15	まとめ

#### 評価

期末テスト(60%)、授業中に作成・提出するリアクションシート(40%)という配分で評価することとし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】授業を受ける前に、自分が現在抱えているか、ささいなものから大きなものまで考えてみてほしい。

【事後学修】毎回の授業後に、その授業で学んだ問題解決手法や問題解決に関する考え方を日常で応用してほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しない。必要に応じて、授業中にプリントを配付する。

【推薦書】授業中に適宜紹介する。

【参考図書】授業中に適宜紹介する。

科目名	新規事業開発		
担当教員名	中嶋 修、田中 由子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

少子高齢化問題は日本の将来に大きな不安を抱えています。幅広い分野で女性の進出が期待されていると同時に、「女性、若者」が積極的に新規事業開発(ベンチャービジネス)や、コミュニティビジネスに取り組む事も求められています。最近、自分のアイデアを活かした学生起業家、女性起業家が増えていますが、新規事業開発を成功させるには、色々な授業で得た知識を活かした、新しいアイデアが必要です。将来、色々な選択肢がある中で、幅広い社会人になる為に必要な事柄を総合的に学ぶ科目です。

#### 科目の概要

ベンチャー支援の現場から見た成功例、失敗例の具体的事例を基に起業分野において必要な事を勉強します。ビジネスモデルを作る為に必要な、取組姿勢(信条)、知識、情報、付加価値の付け方などを勉強します。最新情報として新聞等の情報、時事問題も毎回取り上げて勉強していきます。

#### 学修目標(=到達目標)

情報を得て考える習慣が身に付く・幅広い知識が身に付く・将来の自分が見えてくる

内容	
1	新規事業開発とコミュニティビジネス講義の進め方 ・新聞記事による時事問題
2	コミュニティビジネスの研究 ・新聞記事による時事問題
3	コミュニティビジネスの具体例・新聞記事による時事問題
4	ベンチャーとは(新規事業開発)・新聞記事による時事問題
5	ベンチャービジネスにおける具体的な成功例と失敗例・新聞記事による時事問題
6	日本の経済・政治・外交について・新聞記事による時事問題
7	アイデアの出し方(事例研究)・新聞記事による時事問題
8	海外展開について(アジア・新興国)・新聞記事による時事問題
9	国内産業の動向と景気について・新聞記事による時事問題
10	アイデアについて具体的事例研究(共通テーマ出題)・新聞記事による時事問題
11	経営者に必要なもの(経営全般・組織・法律など)・新聞記事による時事問題
12	ベンチャーを立ち上げる具体的な研究(自分自身)・新聞記事による時事問題
13	自分の将来の可能性について検討・新聞記事による時事問題
14	時事問題のまとめと日本の将来予測(経済、就職)・新聞記事による時事問題
15	まとめ 授業全般のまとめとエール・新聞記事による時事問題

## 評価

授業への参加度40%・小レポート20%・課題レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】政治、経済、トレンドなど、新聞などに興味を持って情報収集に努める事

【事後学修】勉強した課題の中で、今の自分なりの考えを持つ事

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	ビジネス税務		
担当教員名	加藤 順弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

ビジネスパーソンにとって必要不可欠な税金の基礎を学修する科目である。

科目の概要：

法人税や所得税にとどまらず、消費税や不動産等に関する税金まで、ビジネスにかかわる税金を幅広く学修する。

学修目標：

本科目では、ビジネス社会における税務実務の基礎知識を身につける。

内容

1	オリエンテーションと税務トピックス
2	暮らしの税金
3	サラリーマンが身につけておきたい税金知識
4	所得税の基礎知識
5	給与所得とは
6	所得税額の計算と確定申告
7	寄付金等の所得控除について
8	自営業者が知っておくべき税金知識
9	自営業者の確定申告
10	会社経営に必須の税金知識
11	会社に関連する税金
12	会社の利益と所得の関係
13	交際費課税等
14	金融資産の運用、保険・年金と税金の関係
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート等(20点)、学修目標に基づく筆記形式のテスト(60点)、通常の授業態度等(20点)により総合的な評価を行い、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】講義で指示された箇所は必ず読んでくること

【事後学修】その日のうちにノートをもう一度読み返すこと

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト(教科書)】財団法人納税協会連合会『新くらしの税金百科2013 - 2014』清文社

科目名	ライフ設計		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

この授業は「生命保険文化センター」による講座である。生命保険について学ぶことは、一人ひとりの人生や生活設計を考えるきっかけとなり、また、国民生活にかかる保障システムを理解するうえでも大変有益である。

#### 科目の概要

「生命保険の基礎的な知識」から「生命保険の果たす役割」、「生命保険契約のしくみ」、「保険会社の業務」など、社会保障問題を背景に今後一層高まるであろう生命保険について幅広く解説する。

#### 学修目標

生命保険に関する基本的知識の修得を目指す。

内容	
1	オリエンテーション
2	生命保険総論 : 生活とリスク管理
3	生命保険総論 : 生活設計
4	生命保険の種類 : 死亡保障
5	生命保険の種類 : 医療保障
6	生命保険の種類 : 老後保障
7	生命保険の種類 : 介護保障
8	生命保険契約のしくみ
9	生命保険商品の動向
10	損害保険の種類 : 車の保険
11	損害保険の種類 : 住まいの保険
12	生命保険会社の業務
13	総括
14	まとめ 1
15	まとめ 2

#### 評価

授業への取り組み(30%)と試験(70%)で評価し、総合評価60%以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】あらかじめ配布された冊子を読む。

【事後学修】授業中に配布された資料を読む。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：授業中に配布するプリント。

推薦書：授業中に指示する。

科目名	証券市場論		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

この科目は野村証券の冠講座であり、共通科目の総合科目として解説されるものである。

##### 科目の概要

「資本市場と証券投資の基礎」として経済学の基礎から資本市場の全容、そして株式投資・債券投資、グローバル証券投資・分散投資の方法やリスクとリターンの考え方などを実務の観点から解説します。

##### 学修目標

経済の基本からスタートして、投資についての基本的な考え方を理解する。

#### 内容

1	ガイダンス
2	経済事情事始め
3	外国為替のいろは
4	リスク&リターン
5	ポートフォリオの考え方
6	債券入門
7	株式入門
8	投資信託入門
9	投資家心理を学ぶ
10	資産運用とライフプランニング
11	日本株の歴史
12	金融の仕組み
13	財政の仕組み
14	金融市場のゆくえ
15	まとめ

#### 評価

中間試験(30%)、最終試験(70%)

#### 授業外学習

【事前予習】経済ニュースを読む。

【事後学修】授業で扱うプリントを用いて、自分で調べる。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。



科目名	金融論		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

ビジネス情報コースの専門科目であり、FP技能士3級合格を目指し、さらに、2級へと学習を進めていくものである。

##### 科目の概要

FP技能士3級、2級のカリキュラムに沿って学習しながら、広く個人がかかわる金融全体についての知識習得を図る。

##### 学修目標

FP技能士3級、2級に合格できる学力の養成を図る。

#### 内容

1	ガイダンス
2	ライフプランニングと資金計画 1
3	ライフプランニングと資金計画 2
4	生命保険
5	損害保険
6	金融資産運用 1
7	金融資産運用 2
8	金融資産運用 3
9	税制のしくみ 1
10	税制のしくみ 2
11	不動産取引 1
12	不動産取引 2
13	相続と事業継承 1
14	相続と事業継承 2
15	まとめ

#### 評価

平常点(10%)、中間の確認テスト(30%)、学期末テスト(60%)とし、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】事前にプリントを読む。

【事後学修】プリントで復習しながら問題を解く。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	ファイナンスの数理と実務		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

#### 科目の性格

1, 2年次に学習した経済学、会計学、経営学の知識を統合して株式投資などを実践する科目である。

#### 科目の概要

1980年代以降、アメリカを中心に発展してきた金融工学の基礎を理解することをねらいとする。特に、株式投資、債券投資、住宅ローンなどの金融商品の特性とリスクについて学習する。また、東京証券取引所の株式学習ゲームなどを体験する。また、決算書などから会社情報を読み解き、株式投資を行う学習をする。

#### 学修目標

金融商品の概念を理解する。また、会社情報の集め方と読み解き方も合わせて理解する。

#### 内容

1	ガイダンス
2	ファイナンスとは何か
3	財務分析
4	企業分析
5	金融商品1：住宅ローン
6	金融商品2：投資信託
7	外国為替取引1
8	外国為替取引2
9	株式投資シュミレーション1
10	株式投資シュミレーション2
11	株式投資シュミレーション3
12	デリバティブ取引1：先物取引
13	デリバティブ取引2：オプション取引
14	デリバティブ取引3：スワップ取引
15	まとめ

#### 評価

平常点(10%)、毎回の課題(50%)、最終課題(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】会社情報や株価などを確認する。

【事後学修】授業で習得した会社情報などを自分で体験する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示する。

科目名	キャリアサポート		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、キャリアサポート では就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアーすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

#### 内容

1. SPI概要—SPIとは、SPIの考え方、使われ方など

2. 非言語分野の学習

年齢算、仕事算、旅人算、流水算

グラフ・領域、資料解釈、空間把握

順列組み合わせ、確率、n進法

運動力学など

3. 言語分野の学習

同意語、反対語、ことわざ・慣用句

包含関係、行為関係、原料関係、用途関係

複数の意味、長文問題など

各ステージで言語、非言語の両分野を事例にもとづき解説する。

#### 評価

小テスト(50点)、期末試験(50点)等をもとに総合評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】例題の解答

【事後学修】練習問題の解答

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	松永 修一、森田 勝之、栗原 隆史、亀田 温子 他		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

全学共通科目「キャリア教育」の選択科目

科目の概要

様々な業界・企業で活躍する企業社会人10人を招き、仕事への取り組み、会社について、自分のキャリアなど実体験から学ぶ。社会人が羅の学習を自分事につなげ、最初の1・2回と最後の13・14回でキャリアプラン作りを行う。

学修目標(=到達目標)

職業社会のイメージ形成を自己のキャリアプラン作りにつなげる。

内容	
1	ワークショップ1ーキャリアデザインの基本プロセス
2	ワークショップ2ーこれまでの自分の棚卸・自分を「語れる」よう表現する
3	社会人講義1 - リコージャパン・営業職の魅力とは
4	社会人講義2 - メディア業界・女性がメディアの世界で生きる
5	社会人講師3 - 情報業界・システムエンジニアの仕事
6	社会人講師4 - アパレル産業・接客の楽しさ
7	社会人講師5 - 広告業界・コミュニケーションをデザインする
8	社会人講師6 - ホテル・コンシェルジュに学ぶ
9	社会人講師7 - グローバル物流の展開
10	社会人講師8 - 金融業界・地球人として生きる
11	社会人講師9 - NPO活動の展開
12	社会人講師1 - - 製造業・化粧品のメーカーに必要なこと
13	ワークショップ3 - 10人の社会人講師の振り返り、キャリアビジョンを描く
14	ワークショップ4ー 4年次、将来の行動計画をつくる
15	まとめ

評価

キャリアデザイン授業への参加とプラン作りが30点、毎回の社会人講師講義のシートづくりが70点とし、総合評価60点以上を合格とする。

## 授業外学習

【事前予習】社会人講師の業界を事前に学習して、当日グループワークを行う

【事後学修】働きかた、業界についての理解をまとめ自分の認識を深める。

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に関連の本や資料を了解する。

科目名	インターンシップ入門		
担当教員名	岡林 正和		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

本講義は、「インターンシップ」及び「短期インターンシップ」履修の事前授業である(「インターンシップ」「短期インターンシップ」を履修する場合は原則として本講義を履修すること。

#### 科目の概要

企業が求めている人材像(ビジネスマナー、社会人としての基本動作他)、インターンシップの受け入れ先である私企業、地方自治体などについての基本的な知識更には、インターンシップの内容、インターンシップを受ける際の基本的な常識などについて指導する。

#### 学修目標

インターンシップとは、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一環として、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。インターンシップは就職には必ずしも直結しないが、インターンシップを経験することで積極的な就職活動が可能となる。

#### 内容

1	ガイダンス(講義の進め方の説明、注意事項など)
2	企業とはなにか、企業が期待する女性社員像
3	企業のインターンシップについて(インターンシップに参加した先輩社員の報告)
4	企企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介1
5	企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介2
6	企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介3.
7	企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介4
8	企業のインターンシップ開催企業よりの内容紹介5
9	企自治体のインターンシップ 内容紹介
10	ビジネスマナー講座1
11	ビジネスマナー講座2
12	ビジネスマナー講座3
13	資生堂 Top Beauty Specialist 西島悦さんのメイク実演
14	インターンシップの応募手続き方法(学内、学外)
15	まとめ

#### 評価

授業への参加姿勢(40%)、適宜行うテストの結果(30%)、最終テストの評価(30%)



## 授業外学習

【事前予習】各回の発表企業、自治体名を事前に通知するのでその会社、団体の事前調査

【事後学修】当日発表のあった企業、団体と同じ業界の関連事項及びインターンシップ等の調査

## 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

その都度、提示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

演習 ・ で学んだことを基礎に、卒業研究としての論文作成作業を進め、最終的に論文を完成させます。

科目の概要：

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法等を、生活者・消費者の視点から、また、ビジネスパーソンの視点から考察します。契約を中心として、私法の分野からアプローチしてゆきます。文献収集、参加者による報告、論文執筆を通じて、法律とその背景や、現在の社会をめぐる状況を踏まえ、その機能・限界を理解したうえで、展望について検討します。

学習目的：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

## 内容

3年生時の研究テーマ、ゼミ・レポートを踏まえて、各自選択した卒業研究テーマの研究を進めます。前期にはテーマの確定、構想、文献調査を行い、後期にはそれをもとに卒業研究を論文の形に仕上げ作業を進めてゆきます。

## 評価

研究会での参加の積極性、卒業研究の進捗状況・内容により総合的に評価します。100点満点の60点が単位取得の下限です。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究の完成へ向けて進めた作業をまとめる。自らの進捗状況を把握する。

【事後学修】授業時に指摘された個所についてさらに加筆修正し、課題を完成へ向けて作業を進める。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

##### 科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修科目である。

##### 科目の概要

演習 に引き続いて、卒業論文の完成を目指し、さらにプレゼンテーション用の資料を作成する。

##### 学修目標

卒業論文の完成を目指す。

#### 内容

卒論の完成を目指す。アウトラインに基づいて執筆を始める。さらに発表でのコメント、教員の指導のもと修正を図りながら完成させる。

#### 評価

卒業研究に対する積極的な準備と意欲的な態度（40点）及び、課題発表等の達成度（60点）を総合して判断し、評価を行う。

#### 授業外学習

【事前予習】卒業論文の作成を行う。

【事後学修】授業での教員のコメントや他の学生の意見を参考に卒論作成を進める。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト(教科書)】随時教室にて指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	藤本 正徳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

#### 科目の性格

専門必修科目。4年間の集大成としての卒業論文のテーマをきめて、計画を立て、研究・調査し、論文の作成にはいる。

#### 科目の概要

3年次の演習I,演習IIで学んだ知識やアプローチ・分析の手法を用いて、社会や身近な産業・ビジネス・企業に関連したなかで自分の関心のあるテーマを探し、みんなで相談し発表しあいながら、テーマを絞り込んでいき、計画を立て、卒業論文作成のための調査・研究を行う。

#### 学修目標(=到達目標)

主体的に取り組むことにより、自主性・積極性をみがく。また今まで学習した知識やスキルを、テーマの設定や調査・研究にまとめ上げて行くことにより、統合力・応用力・提案力を身につける。

#### 内容

関心のある分野、テーマを発表しあい、それらのテーマに参考になる実際のケース等を取上げて討論し、テーマを絞り込んで計画を立て、作業に入るための手法・手順を学びながらまとめていく。

#### 評価

演習への意欲・関心・態度を30%、卒業論文への準備状況を70%の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】作業進展状況に伴い、必要に応じて指示してく。

【事後学修】演習における指導をもとに調査・分析し、次回にフィードバックを受けること

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。必要な都度指示する。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

4年間の学習のまとめと学習成果の活用 演習において学んだ知識と技術を生かし、実際に調査を実施する。自らテーマ・仮説の設定を行い、調査対象を特定して、調査項目ならびに調査票を作成する。一方分析のための入力フォーマットを決定し、データ入力から分析、まとめにいたる一連のプロセスを遂行することにより、これまで学んできた知識を実践に生かす力を養う。

「データや観察に基づいた分析ができる」「分析結果を整理して、論文や図、表などの形で表現できる」「効果的でわかりやすい卒論の発表ができる」

#### 内容

##### 前期

- 1 卒業研究のテーマ確定
- 2 活動計画の作成
- 3 活動の実施（調査、実践、社会活動等）

##### 後期

- 4 活動の整理
- 5 データ分析、活動記録の作成
- 6 論文作成
- 7 発表資料・プレゼン作成
- 8 発表

#### 評価

通常の活動状況、調査の実践状況、分析知識と技術等を総合して行う。

割合は活動状況30%、卒業論文50% プレゼンテーション20%とする。

#### 授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書『よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方』鍵和田京子・石村貞夫著（東京図書）

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Fクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生活情報学科の専門必須科目

科目の概要

3年生の演習では、企業について、基本的な事柄を理解してきた。本演習では、さらに一步踏み込み、その本質、仕組み、運営それに伴う理論と実際について修得を目指す。その過程で得た知見を基に、卒業論文の作成に入る。

学修目標

卒業論文作成の資料集め等の準備を整える。

内容

実際の企業のケースを題材に、学生との自由な議論、演習を通じて、企業の本質、仕組み、運営それに伴う理論について理解する。その手法を展開して、実企業の分析、問題点を検討する素地を見つけ出す。

評価

演習への参加姿勢及び卒業論文への準備状況に依って評価する。

授業外学習

【事前予習】色々な企業の状況、過去からの展開、今後の展開等について着目する。

【事後学修】自分で研究した内容と実際の動きの違いに着目し、もし予想が異なるようであればその違いが起こった原因を改めて検証する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

必要に応じて適宜資料を提供する。

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究 は、演習 に引き続き、企業の財務諸表分析や企業経営の考え方を会計、税務の両面から幅広く検討し、必修である卒業研究論文を作成する科目である。

演習 に引き続き、会計学、税制の基礎力の確認を行った後、各自の卒業研究テーマを確定し、研究作業に入る。進捗状況に応じた数回の卒業研究発表では、パワーポイント等のソフトウェアを利用して発表を行う。卒論テーマは会計学、税制の範囲に限らず、幅広い分野からのテーマ設定が可能である。発表におけるプレゼンテーションやディスカッションを通してスピーディな資料の作成能力や発言力、ソフトウェアを利用した表現力、効果的な発表力等を身につける。

学修目標としては以下の4点をあげる。

1. 早期卒論テーマの確定。
2. 基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力の習得。
3. 研究に関する基礎能力の育成。
4. 効果的なプレゼンテーションスキルの向上。

#### 内容

具体的な卒業研究 の内容は以下のとおりである。初回はオリエンテーションを行うが、翌週からは各自半期の卒業研究計画の策定、卒業研究論文の方法論等の確認を経てテーマ設定に入る。卒業研究 では、卒論のメインテーマ、サブテーマ、章構成等の検討後、パワーポイント等のソフトを用いて進捗状況に応じ、各自数回の発表報告を行う。夏季休暇におけるゼミ合宿では、卒論のテーマ、構成等の最終的な報告会を行い、後期の本論文作成に備える。また、希望があれば必要に応じて日商簿記検定試験やFP等の資格試験対策、グループディスカッションや模擬面接等の就活対策も行う。

#### 評価

卒論発表(50%)、レポート・ホームワーク等の作成(20%)、ディスカッション等ゼミナール参画態度(30%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】発表者はロスタイムの出ないように事前に準備・確認等しておくこと

【事後学修】発表で指摘を受けた部分は速やかに修正しておくこと

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

資料・推薦書等については、ゼミの進捗状況に応じ授業内で指示する。また必要に応じ適宜プリントを配布する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標 )

##### 科目の性格

ビジネス情報コースの専門必修科目である。

##### 科目の概要

卒業研究 に引き続いて、卒業論文の完成を目指し、さらにプレゼンテーション用の資料を作成する。

##### 学修目標

卒業論文の完成を目指す。

#### 内容

卒業研究 に引き続いて、卒論の完成を目指す。アウトラインに基づいて執筆を始める。さらに発表でのコメント、教員の指導のもと修正を図りながら完成させる。

#### 評価

中間での発表(30%)、卒業論文(70%)

#### 授業外学習

【事前予習】卒論の作成を進める。

【事後学修】教員のコメントや他の学生の意見を参考に卒論作成を進める。

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。



科目名	卒業研究		
担当教員名	藤本 正徳		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

専門必修科目。4年間の集大成としての卒業論文作成。

科目の概要

前期の卒業研究Iで絞り込んだテーマに沿って卒業論文をまとめる。

学修目標(=到達目標)

卒業論文の完成。

内容

卒業論文で選んだテーマと計画に基づいて、前期までに収集した材料を検証分析して結論を導く。最後に作成した論文の要旨をまとめて発表する。

評価

演習への意欲・関心・態度を30%、卒業論文の成果70%の割合で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】都度必要に応じて指示する

【事後学修】演習における指導をもとに調査・分析し、次回にフィードバックを受けること

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

4年間の学習のまとめと学習成果の活用 演習において学んだ知識と技術を生かし、実際に調査を実施する。自らテーマ・仮説の設定を行い、調査対象を特定して、調査項目ならびに調査票を作成する。一方分析のための入力フォーマットを決定し、データ入力から分析、まとめにいたる一連のプロセスを遂行することにより、これまで学んできた知識を実践に生かす力を養う。

「データや観察に基づいた分析ができる」「分析結果を整理して、論文や図、表などの形で表現できる」「効果的でわかりやすい卒論の発表ができる」

#### 内容

##### 前期

- 1 卒業研究のテーマ確定
- 2 活動計画の作成
- 3 活動の実施（調査、実践、社会活動等）

##### 後期

- 4 活動の整理
- 5 データ分析、活動記録の作成
- 6 論文作成
- 7 発表資料・プレゼン作成
- 8 発表

#### 評価

通常の活動状況、調査の実践状況、分析知識と技術等を総合して行う。

割合は活動状況30%、卒業論文50% プレゼンテーション20%とする。

#### 授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

#### 教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書『よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方』鍵和田京子・石村貞夫著（東京図書）

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

演習 ・ で学んだことを基礎に、卒業研究としての論文作成作業を進め、最終的に論文を完成させます。

科目の概要：

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法等を、生活者・消費者の視点から、また、ビジネスパーソンの視点から考察します。契約を中心として、私法の分野からアプローチしてゆきます。文献収集、参加者による報告、論文執筆を通じて、法律とその背景や、現在の社会をめぐる状況を踏まえ、その機能・限界を理解したうえで、展望について検討します。

学習目的：

広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。

## 内容

3年生時の研究テーマ、ゼミ・レポートを踏まえて、各自選択した卒業研究テーマの研究を進めます。前期にはテーマの確定、構想、文献調査を行い、後期にはそれをもとに卒業研究を論文の形に仕上げ作業を進めてゆきます。

## 評価

研究会での参加の積極性20%、卒業研究の進捗状況・内容により80%で評価します。100点満点の60点が単位取得の下限です。

## 授業外学習

【事前予習】卒業研究の完成へ向けて進めた作業をまとめる。自らの進捗状況を把握する。

【事後学修】授業時に指摘された個所についてさらに加筆修正し、課題を完成へ向けて作業を進める。

## 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Fクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

ビジネス情報コースの専門必須科目。

科目の概要

前期までに習得した知見、収集した多くの材料を、分析検証して卒業論文をまとめる。

学修目標

卒業論文の完成

内容

卒論テーマに対し、前期までに収集した材料を、検証分析し、一つの結論を導き出すという一連の論文形成作業を行い、卒業論文として取りまとめる。尚、これを限られた時間内に、要点をまとめ発表するという発表作業をもって最終卒論完成とする。

評価

演習への取り組み姿勢(50%)と卒業論文の成果(50%)

授業外学習

【事前予習】色々な企業の現状、今後の成長性等を注意深く観察する。

【事後学修】自分で出した結論と現実の違いに着目してその違いが起こった原因を検証する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

演習作業の進展に伴って、適宜必要な物を指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

#### ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究 は、卒業研究 に引き続き、企業の財務諸表分析や企業経営の考え方を会計、税務の両面から幅広く検討し、必修である卒業研究論文を完成する科目である。

卒業研究 に引き続き、各自の卒業研究をさらに発展させ、まとめの作業に入る。卒業研究 と同様、進捗状況に応じた数回の卒業研究発表を行う。発表に際しては、パワーポイント等のソフトウェアを利用し、効果的な発表を行う。なお、卒論テーマは会計学、税制の範囲に限らず、幅広い分野からのテーマ設定が可能である。発表におけるプレゼンテーションやディスカッションを通してスピーディな資料の作成能力や発言力、ソフトウェアを利用した表現力、効果的な発表力等を身につける。また科目に関連する資格取得をサポートする。

学修目標としては以下の5点をあげる。

1. 年内における卒業論文ドラフトの完成。
2. 基礎的分析力、問題点の把握とその解決能力の習得。
3. 研究に関する基礎能力の育成。
4. 効果的なプレゼンテーションスキルの向上。
5. 可能な範囲内での資格取得。

#### 内容

具体的な卒業研究 の内容は以下のとおりである。卒業研究 では夏季休暇合宿における卒論サマリーの最終発表報告を受け、本論文の作成を中心に行う。後期のオリエンテーション後、執筆の手順、論構成、章構成、注や引用の取り方等についての確認を行い、前期に作成した卒論の青写真をベースに速やかに本論文の作成に入る。翌年1月末に卒業研究論文集を完成させるため、全員が12月中のファイナルドラフトの終了を目指す。なお、後期においても各自の本論文の進捗状況に応じ数回の発表がある。

#### 評価

卒論発表(50%)、レポート・ホームワーク等の作成(20%)、ディスカッション等ゼミナール参画態度(30%)により総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

#### 授業外学習

【事前予習】発表者はロスタイムの出ないように事前に準備・確認等しておくこと

【事後学修】発表で指摘を受けた部分は速やかに修正しておくこと

#### 教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

資料・推薦書等については、ゼミの進捗状況に応じ授業内で指示する。また必要に応じ適宜プリントを配布する。

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標 (=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】

科目名	演習		
担当教員名	教員未設定		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい( 科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

科目の概要

学修目標 (=到達目標)

内容	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	まとめ

評価

..... とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】

【事後学修】



教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

【推薦書】

【参考図書】